

平成26年度（平成25年度対象）

亀岡市教育委員会 点検・評価報告書

平成26年9月

亀岡市教育委員会

本報告書は、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づき、平成25年度事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行いました。

ご一読いただき、亀岡市教育委員会の取組について、ご意見等をお寄せください。

亀岡市教育委員会では、将来を展望し、中長期的な視点に立って地域の実情に合った教育活動をより効果的に実施していくため、目指すべき教育の基本的な方向性や重点施策を明らかにした「亀岡市教育振興基本計画～かめおか教育プラン～」を策定しました。目標項目ごとに平成28年度の数値目標を設定し、成果が明らかになるように進捗状況を確認し、進めてまいります。

「ともに学びともに育ち　ともに生きる　かめおか教育の創造」を基本理念とし、めざす子ども像を「ほっかほか心　ふるさと大好き　かめおかっ子」とし、子どもたちが、学校・地域・家族のあたたかな見守りの中で包み込まれるという感覚を実感し、ふるさとを愛し、人を思いやる心を育む教育を推進してまいります。

平成26年9月

亀岡市教育委員会

教育委員会委員名簿

職 名	氏 名
委 員 長	中 桐 安 子
委員長職務代理者	栗 山 正 則
委 員	井 上 昌 啓
委 員	吉 岡 眞知子
委 員	江 口 昌 道
教 育 長	竹 岡 敏

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

- 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1 頁
2	会議の開催状況・・・・・・・・	1 頁
3	平成25年度教育委員会活動の概要・・・・・・・・	7 頁
4	その他の活動・・・・・・・・	11 頁
5	亀岡市教育振興基本計画平成25年度推進施策・・・・・・・・	12 頁
6	推進施策の取組状況評価	
	(1) 点検・評価の方法・・・・・・・・	16 頁
	(2) 点検・評価結果の構成・・・・・・・・	16 頁
	(3) 総合評価の状況・・・・・・・・	16 頁
7	数値目標事業の進捗状況・・・・・・・・	17 頁
8	施策別評価	
	1 「生きる力」の育成・・・・・・・・	18 頁
	2 ふるさとを愛する心の育成・・・・・・・・	27 頁
	3 学校の教育力の向上と魅力ある学校づくりの推進・・・	30 頁
	4 安全安心で充実した教育環境の整備・・・	34 頁
	5 生涯学習活動の推進・・・・・・・・	39 頁
	6 歴史・文化・自然の保存継承と発信・・・・・・・・	45 頁
	資 料・・・・・・・・	47 頁

1 はじめに

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づき、平成25年度の教育委員会活動を振り返るとともに、本市教育委員会が毎年度示す「亀岡市教育振興基本計画～かめおか教育プラン～平成25年度推進施策」を基に、具体的な推進施策について教育委員会自ら事務の進捗状況について点検・評価を行いました。

2 会議の開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を、また、必要に応じて臨時会を開催しているほか、事前協議等のため教育委員協議会を次のとおり開催しました。

会議名	日時	付議案件等
教育委員会 (臨時)	H 2 5 4 / 1 (月) 13:30～ 13:50	(第1号議案) 亀岡市教育委員会委員長の選任について (第2号議案) 亀岡市教育委員会委員長職務代理者の選任について (第3号議案) 亀岡市教育委員会教育長の任命について
教育委員 協 議 会	4 / 9 (火) 15:00～ 17:00	(協議事項) 亀岡市教育振興基本計画について
教育委員会 (臨時)	4 / 2 2 (月) 17:10～ 17:40	(第4号議案) 亀岡市立学校教職員に対する処分の内申について
教育委員会 (定例)	4 / 2 4 (水) 15:00～ 17:00	(第5号議案) 児童生徒の入学すべき学校区を指定する規則の一部を改正する規則の制定について (協議事項) 平成25年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について (報告事項) 生徒指導上の問題事象について 平成25年度国・府等の研究等指定(委託)事業について ヒロシマに学ぶ親子平和の旅について 平成25年度人権教育啓発指導員の委嘱について シンボルプロジェクト「亀岡市文化資料館みんなで応援サイト」の開設について 教育講演会について (その他) 南丹教育委員会連絡協議会総会・研修会について 京都市府市町村教育委員会連合会定期総会について 平成25年度小・中学校長会等の役員について 今年度の学校訪問計画について 「かめおかっこ夢・未来読書プラン」推進会議委員の選出について

教育委員会 (定例)	5 / 23 (木) 15:00～ 17:00	(第6号議案) 亀岡市立幼稚園条例の一部を改正する条例の原案決定について (報告事項) 平成25年度一般会計6月補正予算案について 平成24年度公立中学校卒業生徒の進路状況について 平成25年度人権教育講座及び人権教育指導者研修会の開催について 文化資料館平成25年度事業計画等について 6月教職員研修講座について サイエンスフレンズ学習クラブについて (その他) 教育委員による学校訪問計画について
教育委員 協 議 会	6 / 19 (水) 13:30～ 15:30	(協議事項) 亀岡市教育振興基本計画(案)について
教育委員会 (定例)	6 / 26 (水) 15:00～ 17:10	(第7号議案) 亀岡市教育振興基本計画の策定について (第8号議案) 亀岡市教育振興基本計画平成25年度推進施策について (第9号議案) 社会教育委員の委嘱について (報告事項) 亀岡市議会6月定例会一般質問・答弁要旨について 平成25年度京都府小学校学力診断テスト結果について 食物アレルギー等を有する児童生徒等への対応等について 第62回平和祭市民スポーツ大会について 亀岡市市民プールの開設について 平成25年度各地区人権啓発推進協議会等総会の開催状況について 7・8月教職員研修講座について 夏季教育セミナーについて 自立支援事業について (その他) 教育委員による学校訪問計画について 亀岡市議会9月定例会の日程について 平成25年度地域こん談会の日程について 高等学校への工業系学科設置要望に対する現況について
教育委員 協 議 会	7 / 4 (木) 14:30～ 17:15	(協議事項) 教育委員会施策の点検・評価(案)について
教育委員会 (定例)	7 / 24 (水) 13:30～ 15:00	(第10号議案) 亀岡市立幼稚園園則の一部を改正する規則の制定について (報告事項) へき地学校等スクールバス運行規程の改正について 人権教育事業実績報告について 第54回文化資料館企画展等について 夏休み探究活動について 地域ふれあいサイエンスフェスタ2013について
教育委員 協 議 会	7 / 24 (水) 15:05～ 17:10	(協議事項) 教育委員会施策の点検・評価(案)について

教育委員会 点検・評価 会議	8 / 1 2 (月) 13:30～ 15:30	(会議) 平成25年度(平成24年度対象) 亀岡市教育委員会点検・評価報告書(案)について 外部有識者による意見・助言について
教育委員会 (定例)	8 / 3 0 (金) 10:00～ 12:10	(第11号議案) 平成26年度使用小学校教科用図書の採択について (第12号議案) 平成26年度使用中学校教科用図書の採択について (第13号議案) 平成26年度使用教科用図書(特別支援学級用)の採択について (第14号議案) 教育財産の廃止について (第15号議案) 亀岡市教育委員会点検・評価報告書の策定について (報告事項) セーフスクールの取組について 平成25年度一般会計9月補正予算案について 亀岡教職員組合2013年度統一要求書について 若木の家のある方について いじめ調査結果について 小中一貫教育の広報について 生徒指導上の問題事象(1学期のまとめ)について 全国学力・学習状況調査結果について 亀岡市学力向上ビジョンについて 運動会・体育祭について 元旦ロードレースの見直しについて 9月教職員研修講座について 地域ふれあいサイエンスフェスタ2013について (その他) 平成25年度市町村教育委員研究協議会(第2ブロック)の参加について
教育委員会 (定例)	9 / 2 6 (木) 10:00～ 11:45	(報告事項) 亀岡市教育委員会点検・評価報告書の公表について 亀岡市議会9月定例会一般質問・答弁要旨について 第2回教育委員学校訪問計画について 亀岡市小学校児童陸上運動交歓記録会について 口丹波中学校駅伝競走大会兼京都府予選について 亀岡市研究発表会について 第32回亀岡元旦ロードレース(ファイナル)について 図書館中央館リニューアルオープンについて 第29回文化資料館特別展について 地域ふれあいサイエンスフェスタ2013について 10月教職員研修講座について (その他) 平成25年度市町村教育委員研究協議会(第2ブロック)への参加について 平成25年度近畿市町村教育委員研修大会への参加について

教育委員会 (定例)	10 / 22 (火) 10:00～ 11:20	(報告事項) 平成26年度予算編成方針について 口丹波中学校駅伝競走大会の結果について 亀岡市小学生駅伝(持久走)大会の開催について 南丹地区小学生駅伝競走大会「京都丹波キッズふれあい駅伝」の開催について 「出会い 発見 共生 人権を考える第31回亀岡市女性集会」の開催について 第51回小中学生記者の文化財取材コンクール等について 11月教職員研修講座について (その他) 第2回教育委員学校訪問について 亀岡市議会12月定例会の日程について 京都府内市町(組合)教育委員研修会及び懇親会について
教育委員会 (定例)	11 / 13 (水) 13:30～ 15:20	(第16号議案) 亀岡市野外活動施設条例の一部を改正する条例の原案決定について (第17号議案) 亀岡市社会体育施設条例の一部を改正する条例の原案決定について (第18号議案) 亀岡市中央公民館使用条例の一部を改正する条例の原案決定について (第19号議案) 児童生徒の入学すべき学校区を指定する規則の一部を改正する規則の制定について (第20号議案) 亀岡市スポーツ推進委員に関する規則の一部を改正する規則の制定について (報告事項) 平成26年度教職員人事異動方針について 平成25年度一般会計12月補正予算案について 教育用コンピュータシステムについて 京都府中学校駅伝競走大会の結果について 亀岡市小学生駅伝(持久走)大会の結果について 12月教職員研修講座について (その他) 南丹教育委員会連絡協議会視察研修会について
教育委員会 (定例)	12 / 17 (火) 10:00～ 12:15	(第21号議案) 亀岡市野外活動施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について (報告事項) 亀岡市議会12月定例会一般質問・答弁要旨について 南丹地区小学生駅伝競走大会「京都丹波キッズふれあい駅伝」の結果について 平成25年度京都府中学校学力診断テストの結果について 土曜日を活用した教育の在り方について(考え方のまとめ) いじめ防止対策推進法・基本方針について 川東小・高田中小中一貫校愛称募集について 食物アレルギー対策の手引き(案)について 亀岡元旦ロードレース参加申込件数について 亀岡市民駅伝競走大会について 平成26年成人式について 「出会い 発見 共生 人権を考える第31回亀岡市女性集会」の開催結果について 第55回文化資料館企画展について 1月教職員研修講座について

教育委員会 (定例)	H 2 6 1 / 2 2 (水) 15:00～ 17:00	(第 2 2 号議案) 亀岡市立小学校及び中学校における休業期間の変更について (協議事項) 亀岡市教育振興基本計画平成 2 6 年度推進施策について (報告事項) 「亀岡市立小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の服務に関する規程」の改正について 生徒指導上の問題事象(2 学期のまとめ)について 平成 2 5 年度全国学力・学習状況調査の分析結果について 京都亀岡ハーフマラソンについて 2 月教職員研修講座について (その他) 亀岡市議会 3 月定例会の日程について
教育委員会 (定例)	2 / 1 4 (金) 15:00～ 17:20	(第 2 3 号議案) 亀岡市部設置条例の一部を改正する条例の原案決定について (第 2 4 号議案) 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の原案決定について (第 2 5 号議案) 亀岡市幼稚園条例の一部を改正する条例の原案決定について (第 2 6 号議案) 亀岡市社会教育委員設置条例の一部を改正する条例の原案決定について (協議事項) 平成 2 6 年度全国学力・学習状況調査について 亀岡市いじめ防止基本方針(案)について (報告事項) 平成 2 6 年度教育委員会所管当初予算案の概要について 平成 2 5 年度一般会計 3 月補正予算案について いじめ調査結果について 亀岡市スポーツ賞について (その他) 平成 2 5 年度卒業(園)式等について
教育委員会 (臨時)	2 / 2 7 (木) 15:30～ 16:00	(第 2 7 号議案) 亀岡市立小・中学校校長の人事異動について (第 2 8 号議案) 亀岡市立小・中学校教頭の人事異動について
教育委員 協 議 会	2 / 2 7 (木) 16:00～ 17:00	(協議事項) 亀岡市立幼稚園平成 2 6 年度指導方針について 平成 2 6 年度全国学力・学習状況調査の結果公表について
教育委員会 (臨時)	3 / 2 4 (月) 16:00～ 16:15	(第 2 9 号議案) 亀岡市教育委員会事務局・教育機関の管理職人事について
教育委員会 (定例)	3 / 2 7 (木) 9:30～ 12:00	(第 3 0 号議案) 亀岡市教育委員会基本規則の一部を改正する規則の制定について (第 3 1 号議案) 亀岡市教育委員会事務局事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について (第 3 2 号議案) 亀岡市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則の制定について (第 3 3 号議案) 亀岡市立幼稚園園則の一部を改正する規則の制定について

		(第 3 4 号議案) 亀岡市スポーツ推進委員に関する規則等を廃止する規則の制定 について (第 3 5 号議案) 亀岡市教育振興基本計画平成 2 6 年度推進施策について (第 3 6 号議案) 平成 2 6 年度全国学力・学習状況調査結果の公表について (第 3 7 号議案) 平成 2 6 年度準教科書使用承認について (第 3 8 号議案) 教育財産の廃止について (報告事項) 平成 2 6 年度教育委員会事務局職員の人事異動について 平成 2 6 年度亀岡市立学校教職員の人事異動について 亀岡市教育委員会事務専決規程の改正について 亀岡市議会 3 月定例会一般質問・答弁要旨について 川東小・高田中小中一貫校の愛称について 高齢者さわやか教室実施報告について 成人式大賞について
--	--	--

○会議開催回数

教育委員会（定例）	1 2 回
教育委員会（臨時）	4 回
教育委員協議会	5 回
教育委員会点検・評価会議	1 回
計	2 2 回

3 平成25年度教育委員会活動の概要

(1) 学校訪問（第1回）

実施日時 平成25年7月4日（木）
 参加者 教育委員会委員6名、事務局4名
 訪問先 南つつじヶ丘小学校・亀岡小学校
 日程

訪問先・時間	内 容
南つつじヶ丘 小学校 AM7:45～ AM11:00	・登校状況確認 ・朝読書参観 ・授業参観 ・学校経営方針、教育課程、重点課題について学校長と懇談
亀岡小学校 AM11:20～ PM2:30	・授業参観 ・学校給食 ・学校経営方針、教育課程、重点課題について学校長と懇談 ・通級指導教室見学

(2) 学校訪問（第2回）

実施日時 平成25年11月28日（木）
 参加者 教育委員会委員6名、事務局4名
 訪問先 保津小学校
 日程

訪問先・時間	内 容
保津小学校 AM7:45～ PM1:00	・登校状況確認 ・朝学習参観 ・学校経営方針、教育課程、重点課題について学校長と懇談 ・授業参観 ・中間休み見学 ・教育懇談会（PTA役員と懇談） ・学校給食

(3) 管外視察研修

実施日時 平成26年2月14日(金)
参加者 教育委員会委員5名、事務局4名
訪問先 京丹波町立瑞穂中学校
内 容 ・配膳室、配送車受入れ視察
・給食試食、説明・懇談
・配膳の様子視察

(4) 小学校PTAとの懇談会

学校名	懇談日時	出席者	懇談内容
保津小学校	H25.11.28(木) 10:50~11:50	保津小学校PTA会長・ 副会長 学校長、教頭 教育委員会委員 教育委員会事務局職員	・PTA活動方針、事業活動等について ・地域との連携について ・親子のふれあいについて

(5) 小学校長との懇談会

実施日 平成25年9月4日(水)
出席者 市内小学校長18名、教育委員会委員6名、事務局
懇談事項 ・学力向上・土曜活用の取組について
・安全安心の取組について
・保護者・地域連携の取組について

(6) 中学校長との懇談会

実施日 平成25年9月4日(水)
出席者 市内中学校長8名、教育委員会委員6名、事務局
懇談事項 ・進路指導・学力向上について
・生徒指導について
・学校予算と施設について
・文化・スポーツについて

(7) 各種研修会等

① 南丹教育委員会連絡協議会研修会

実施日 平成25年5月10日(金)
場 所 京丹波町和知ふれあいセンター 2階 研修室
出席者 教育委員会委員6名
研修内容
(講演) 演題 「京の森林と林業大学校」
京都府立林業大学校 副校長 木村 祐一 氏

②南丹教育委員会連絡協議会視察研修会

実施日 平成25年12月11日（水）
場 所 福井県小浜市立小浜小学校・小浜中学校
出席者 教育委員会委員5名、事務局1名
研修内容 全国学力・学習状況調査で上位に位置する小浜市内の小中学校への視察研修

③京都府市町村教育委員会連合会委員研修会（春）

実施日 平成25年5月24日（金）
場 所 京都府総合教育センター
出席者 教育委員会委員5名
内 容
（講演） 演題 「今日的な教育課題について」
講師 京都府教育庁 教育次長 橋本 幸三 氏

④京都府市町村教育委員会連合会委員研修会（秋）

実施日 平成25年11月1日（金）
場 所 ルビノ京都堀川
出席者 教育委員会委員6名
内 容
（講演） 演題 「教育委員会制度改革について」
講師 京都府教育庁 管理部長 小橋 秀生 氏
（意見交換） 「私たち教育委員のミッションとは…」
（発表） 「今後求められる教育委員会の3か条！」

⑤近畿市町村教育委員研修大会

実施日 平成25年10月18日（金）
場 所 奈良県橿原文化会館 大ホール
出席者 教育委員会委員3名、事務局1名
内 容
（行政説明） 教育委員会改革について
（講演） 演題 古事記・日本書紀と飛鳥藤原京時代
講師 奈良県立橿原考古学研究所 所長 菅谷文則 氏

⑥市町村教育委員会研究協議会（第2ブロック）

実施日 平成25年11月5日（火）・6日（水）
場 所 島根県松江市 くにびきメッセ
出席者 教育委員会委員6名、事務局1名

内 容

(行政説明) 「初等中等教育をめぐる最近の動向について」

文部科学省初等中等教育局審議官

(講演) 「自らを育てる力はどこから来るか—キャリア教育の土台となるもの—」

講師 島根大学 副学長 肥後 功一 氏

(パネルディスカッション)

テーマ：「地域課題とキャリア教育」

(事例発表・研究協議)

第1分科会 「学校生活への満足度を高める教育の推進」

—児童生徒の「居場所づくり」「絆づくり」—

第2分科会 「発達段階に応じたきめ細やかな『特別支援教育』について」

第3分科会 「思考力・判断力・表現力を育むための『学校図書活用教育』について」

4 その他の活動

月	各種行事・大会等	
	亀岡市関係	国・府関係（場所）
4 月	年度当初校園長会議 幼稚園入園式、小・中学校入学式	府立高等学校入学式（亀岡高校、 南丹高校、農芸高校）
5 月		南丹教育委員会連絡協議会総会 （京丹波町） 京都府市町村教育委員会連合会 定期総会（京都市）
6 月	市議会 6 月定例会（本会議、一般質問）	
7 月	平和祭市民スポーツ大会総合開会式 社会を明るくする運動市民中央集会	
8 月	平和祈念式典 亀岡市総合防災訓練	
9 月	亀岡市セーフコミュニティ推進協議会 並びにインターナショナル・セーフ スクール取組宣言 市議会 9 月定例会（本会議、一般質問） 幼稚園・小学校運動会、中学校体育祭 亀岡市戦没者追悼式 石田梅岩墓前祭	
10 月		
11 月	亀岡市自治振興式典	
12 月	市議会 12 月定例会（本会議、一般質問）	
1 月	亀岡元旦ロードレース 新春年賀交歓会 亀岡市成人式	
2 月	亀岡市スポーツ賞表彰式	
3 月	市議会 3 月定例会（本会議、一般質問） 幼稚園修了式 小・中学校卒業証書授与式 市立幼稚園二園合同閉園式典	府立高等学校卒業式（亀岡高校、 南丹高校、農芸高校）

5 亀岡市教育振興基本計画平成25年度推進施策

1 「生きる力」の育成

- (1) 確かな学力、学ぶ意欲の向上
 - ①生きる力を育む開かれた魅力ある学校・園づくりの推進
 - ②学力診断テスト等の活用と基礎学力充実事業の効果的な推進
 - ③理科、算数・数学科教育の充実
 - ④小学校外国語活動の推進
 - ⑤小学校専科（音楽・図工）指導の推進
 - ⑥キャリア教育の具体化等、進路指導に関わる取組の充実
 - ⑦教育に関する研究活動の推進
- (2) 就学前教育の推進
 - ①公立保育所幼稚園研究協議会活動の充実と私立幼稚園、小学校との連携の推進
 - ②特別な支援が必要な園児に対する適切な指導体制の確立と教育相談の充実
 - ③新幼稚園における特色ある教育プログラム及び幼児教育総合センター機能の検討
- (3) 健康教育・安全教育の充実
 - ①計画的な保健指導と安全指導の実施と充実
 - ②食に関する指導の充実
 - ③豊かな心・人間関係を培う望ましい生活習慣の育成
 - ④フッ化物洗口によるむし歯予防事業（幼稚園・小学校）の推進
 - ⑤喫煙・薬物乱用防止教育及び性教育の推進
 - ⑥児童生徒の健康診断等の実施
- (4) 体力・競技力の向上
 - ①幼児・児童・生徒の体力・運動能力の向上
 - ②小学校陸上運動交歓記録会・小学生駅伝（持久走）大会の充実
 - ③南丹地区小学校駅伝競走大会「京都丹波キッズふれあい駅伝」への参加
 - ④中学校各種競技会の充実
 - ⑤小・中学校体育連盟への支援の充実
 - ⑥幼稚園、小学校、中学校、高等学校の校種間連携による指導の充実
- (5) 特別支援教育の充実
 - ①校内体制の充実および児童生徒の実態把握
 - ②関係諸機関、校種間連携による指導・支援の充実
 - ③交流及び共同学習の推進（特別支援学校・特別支援学級等）
 - ④就学相談と進路指導の充実
 - ⑤特別支援教育支援員の増員による支援体制の充実
 - ⑥保護者及び地域社会への啓発の充実
- (6) 人権教育の推進
 - ①児童生徒の基礎学力充実と進路保障及び主体的に進路選択できる力の育成
 - ②教育活動全体を通じた計画的な人権教育の推進
 - ③人権尊重の実践的態度を育成する教育活動の充実
 - ④日常的・継続的な家庭・地域社会、関係機関及び校種間の連携
- (7) 生徒指導、教育相談の充実
 - ①いじめを許さない学校、学級づくりの推進
 - ②教育相談事業の充実
 - ③適応指導教室の充実及び不登校に係る民間施設や専門機関との連携

- ④スクールカウンセラー活用事業の推進
- ⑤生徒指導上の問題行動に対する指導体制の充実とスクールサポーターの積極的活用
- ⑥不登校対策支援員の配置
- ⑦ネットいじめ等の諸問題に対する児童生徒・保護者への指導・啓発の推進
- ⑧児童虐待の早期発見及び関係機関と連携した早期対応

(8) 今日的な課題に応える教育の充実

- ①国際理解教育の充実
- ②教育用コンピュータ、電子黒板等情報通信機器の有効な活用の推進
- ③情報活用能力に関する指導の充実
- ④実践的な環境教育の推進
- ⑤体験活動を重視した小・中学生の道德教育の充実

2 ふるさとを愛する心の育成

(1) 体験的活動の推進

- ①KYO発見 仕事文化体験活動推進事業などによる学習活動の充実
- ②地球環境子ども村、NPO等と連携した環境学習・体験学習の推進
- ③児童生徒によるボランティア活動の推進
- ④亀岡の歴史、文化、自然を通したふるさと学習「かめおか学」の推進
- ⑤地域ふれあいサイエンスフェスタの充実

(2) 豊かな感性を育む教育の推進

- ①亀岡市学校美術展覧会の開催
- ②市立幼稚園子ども展の開催
- ③「本物の舞台芸術体験事業」などによる演劇やミュージカル等の鑑賞機会の提供
- ④児童生徒の読書習慣や読書意欲の向上

(3) 地域の教育機能の活用

- ①学校評価等を活用した開かれた学校づくりの推進
- ②自然や歴史、伝統文化などの地域学習やクラブ活動における地域人材の活用
- ③学校支援地域本部事業の拡大

3 学校の教育力の向上と魅力ある学校づくりの推進

(1) 小中一貫教育の推進

- ①施設一体型小中一貫校（川東小・高田中）の平成27年度開校に向けた取組の推進
- ②9年間を見通した系統的・継続的な年間学習指導計画の作成
- ③小中学校教員による小学校専科授業・TT授業の実施
- ④小中学校の教職員研修や学校行事交流の実施

(2) 学校規模適正化の検討

- ①適正な学校規模の調査・研究

(3) 教員の資質・能力の向上

- ①各種研修会の充実と校内研究、研修による指導方法の工夫・改善への支援
- ②研究指定事業を活用した学校力の向上、教員の資質能力の向上

(4) 教育研究所事業の充実

- ①学力向上に向けての具体的な方途の開発・発信
- ②教職員の指導力向上に必要な教職員研修講座の充実
- ③特別支援教育・教育相談など学校現場のニーズに対応する研修の充実
- ④幼児・児童・生徒の学習活動支援および保幼小中連携の推進
- ⑤時代の要請、亀岡の独自課題に応じる調査研究活動の推進
- ⑥問題を抱える子ども等の自立支援事業活用によるいじめ対策等生徒指導の推進

4 安全安心で充実した教育環境の整備

(1) 安全・安心で快適な教育環境の整備

- ①学校施設耐震化の計画的推進
- ②学校・園施設の老朽箇所等の計画的整備
- ③学校施設・設備の日常的な点検活動
- ④快適な教育環境の整備

(2) 安全指導、安全管理の充実

- ①学校安全対策委員会を中心に自治会・PTA等と連携した学校安全体制の充実
- ②学校安全対策協力員の配置と地域の見守り隊等の協力による安全対策の推進
- ③通学安全対策の充実及び学校安全マップの定期的な見直しと活用
- ④「地域子ども出迎えデー」の推進と学校安全メールシステムの活用促進
- ⑤セーフスクールの推進
- ⑥危機管理マニュアルに基づく安全体制の確立と研修・訓練の計画的な実施

(3) 学校図書、学習教材・資機材の充実

- ①学校図書館図書蔵書数の標準冊数達成に向けた蔵書数の充実
- ②理科・数学の学習教材・資機材の充実
- ③教育の情報化に向けた学習資機材の整備

(4) 学校給食の充実

- ①地元産食材の利用推進と、安全・安心で、栄養バランスに配慮した給食の提供
- ②給食と「きゅうしょくだより」での広報を通じた食育の推進
- ③食物アレルギーを有する児童への給食の取組みと適切な対応のための学校給食センター・学校・保護者との連携の強化
- ④中学校給食についての調査・研究

(5) 就学・修学への支援

- ①経済的に就学困難な小・中学生への援助費の支給
- ②高校生・大学生を対象とした奨学金、入学激励金の支給
- ③就園奨励費補助金の支給

5 生涯学習活動の推進

(1) 人権教育・人権学習の推進

- ①多様な学習内容・機会の提供
- ②自主的な人権学習活動への支援

(2) 家庭教育への支援

- ①親のための応援塾への支援
- ②亀岡市PTA連絡協議会との連携と活動支援

- (3) 子どもの健全育成の推進
 - ①青少年育成団体との連携による子どもの健全育成の推進
 - ②子ども「心の教育」推進事業の推進
 - ③亀岡市成人式の充実
 - ④放課後児童会事業の充実
- (4) 市民の学習活動の推進
 - ①高齢者さわやか教室の充実
 - ②生涯学習関係機関・団体との連携による学習機会や学習情報の提供
 - ③中央公民館活動の充実
- (5) 読書活動の充実
 - ①図書館施設の整備、読書環境の充実
 - ②図書館蔵書の充実による市民読書の推進
 - ③「かめおかっこ夢・未来読書プラン」に基づく子ども読書活動の推進
 - ④読書ボランティアの養成と支援
- (6) 生涯スポーツの推進
 - ①元旦ロードレースの実施と、より充実に向けたあり方の検討
 - ②体育協会や関係機関と連携した生涯スポーツの推進と競技力向上への支援
 - ③市民総合体育大会等各種スポーツ大会の充実
 - ④スポーツ推進委員による市民スポーツの普及振興事業の実施
 - ⑤スポーツ環境の整備・充実

6 歴史・文化・自然の保存継承と発信

- (1) 文化財の保存と活用
 - ①史跡丹波国分寺跡公有化及び整備の推進
 - ②世代間交流の積極的な展開と後継者の育成支援
 - ③歴史的・文化的景観の保存と活用
- (2) 歴史・文化・自然を学ぶ拠点の整備
 - ①新資料館構想策定の検討
 - ②文化資料館での特別展・企画展・ロビー展の開催
 - ③子ども歴史教室の充実
 - ④文化資料館友の会の連携事業の充実
 - ⑤出前講座・授業による学習活動への支援

6 推進施策に係る取組状況評価

(1) 点検・評価の方法

亀岡市教育委員会事務の点検・評価の実施に関する要綱（平成21年亀岡市教育委員会告示第2号）に基づき、点検・評価を行いました。

点検・評価は、対象施策・事業の内容と実績を明らかにするとともに、成果と課題等を示しています。また、教育に関し学識経験を有する方のご協力を得て、8月8日（金）に点検・評価会議を開催し、様々な意見や助言を得ました。

助言等をいただきました学識経験者は、次のとおりです。

（敬称略）

氏 名	所 属
出口 真人	社会福祉法人愛善信光会亀岡保育園理事長
吉中 康子	京都学園大学教授
廣瀬 義直	千歳町自治会長、元小学校長

(2) 点検・評価結果の構成

①評価対象

「亀岡市教育振興基本計画平成25年度推進施策」28項目

②事業内容・実績・対象者等

各項目の目標達成に向けて、主に取り組んだ事業内容、実績及び対象者等を示しています。

③成果・課題等

事業の実施に伴い、教育上効果があった内容、成果及び課題等を示しています。

④内部評価

計画目標に対し、取組の進捗状況などをふまえ、外部の方々からのご意見を参考にしながら、A～Cの3段階評価を行っています。

（評価判断基準）A…計画どおり又は計画以上の成果を得た

B…概ね目標は達成できた

C…課題を残し目標も十分達成できなかった

⑤担当課

事業を実施した担当課等の名称を示しています。

(3) 総合評価の状況

亀岡市教育振興基本計画の取組初年度である平成25年度推進施策は、概ね順調に推進し、一定の目標を達成することができた。しかし、学力向上をはじめ、特別支援教育、小中一貫教育の推進、ネット社会への対応等の重要項目については、更なる取組強化を図るとともに、課題のある項目の解決に向け、一層の努力が必要である。また、学識経験者からは、達成度合いによる評価方法への見直し、施策に対する関係者コメント表記の検討、具体的な課題抽出の表記が望ましいなどの意見があった。

これらを踏まえ、亀岡市教育振興基本計画の目標達成のため、計画的な事業推進と検証を行うとともに、評価方法についても工夫改善し、制度の充実に努める必要がある。

7 数値目標事業の進捗状況

目標項目	活動指標	目標年次 目標	目標設定時 実績	平成25年度末 実績数値 (現状値)	進捗率	備考
《目標1》 「生きる力の育成」	京都府学力診断 テスト	H28 府内平均点 を上回る		小学校 国語 4校 算数 7校 中学校 国語 5校 数学 4校 英語 5校 が府内平均点を上回 った。		
	不登校児童生徒 の割合 (出現率)	H28 減少	小学校 (H20～23平均) 0.36% 中学校 (H20～23平均) 2.10%	H25(小学校) 0.41% H25(中学校) 2.31%		
《目標2》 「ふるさとを愛する 心の育成」	地域の自然や歴史に 関心のある 児童生徒の割合	H28 増加	H24(小学6年生) 59% H24(中学2年生) 35%	H25(小学6年生) 57.9% H25(中学2年生) 31.0%		
	体験学習に参加 した児童生徒の 割合	H28 100%	H23(小学4年生) 98.3% H23(中学2年生) 97.9%	H25(小学4年生) 99.77% H25(中学2年生) 99.89%	99.8%	
《目標3》 「学校の教育力の 向上と魅力ある学 校づくりの推進」	教職員研修講座 参加者数	H28 1,800人	H24 1,539人	H25 1,696人	94.2%	
	教職員研修 講座数	H28 50講座	H24 46講座	H25 48講座	96.0%	
《目標4》 「安全安心で充実 した教育環境の 整備」	小中学校施設 の耐震化率	H28 100%	H23 90.2%	H25 95.5%	95.5%	
	学校図書館図書 標準冊数達成率	H28 増加	H23 73.0%	H25 77.7%		
《目標5》 「生涯学習活動の 推進」	市民一人当たり 年間図書貸出 冊数	H28 5.3冊	H23 4.8冊	H25 4.4冊	83.0%	4/1～9/30 中央館 休館
	各種スポーツ大 会・教室参加者 数	H28 13,500人	H24 12,269人	H25 14,568人	107.9%	
《目標6》 「歴史・文化・自然 の保存継承と発信」	新資料館構想 の策定	27年度まで に策定		26年度から策定委 員会を開催し、27年 度末までに策定	現 在 取組中	
	文化資料館 利用者数	H28 年間1万人	H23 年間 6,018人	H25 年間 6,201人	62.0%	

8 施策別評価

重点目標		1 「生きる力」の育成
推進施策	(1) 確かな学力、学ぶ意欲の向上	
事業内容 実績 対象者等	① 生きる力を育む開かれた魅力ある学校・園づくりの推進 ・ 特色ある学校づくりを進めるため、生きる力を育む開かれた学校づくり事業をすべての小中学校で実施した。 ② 学力診断テスト等の活用と基礎学力充実事業の効果的な推進 ・ 京都府学力診断テストの実施・分析を行い、独自問題集「かめもん」の活用を図り、児童生徒の学力向上に努めた。 ・ 基礎・基本の徹底による学力向上を図るため、亀岡市基礎学力充実推進事業をすべての小中学校で実施した。 ③ 理科、算数・数学科教育の充実 ・ 文部科学省委託事業である平成25年度理科授業指導力アップ講座を計画的に活用し、指導者の理科教育に関する専門性を高める取組を進めた。 ④ 小学校外国語活動の推進 ・ すべての小学校でALT (Assistant Language Teacher) による指導を行うとともに英語活動サポーターを配置した。 ⑤ 小学校専科（音楽・図工）指導の推進 ・ 児童の学習意欲を高め、授業内容を充実させるため、小学校専科指導推進事業を実施した。（音楽科17校、図画工作科1校） ⑥ キャリア教育の具体化等、進路指導に関わる取組の充実 ・ 児童生徒が自分らしく生きる力をつけるため、京都府の「KYO発見仕事・文化体験活動推進事業」を活用し、小学校は4年生を中心に、中学校は2年生を対象に体験活動を実施した。 ⑦ 教育に関する研究活動の推進 ・ 教育の振興を図るため、各種教育研究活動に対し助成を行った。	
成果 課題等	【成果】 - すべての小中学校において、各校の実態に応じた表現力の育成等に関する研究テーマを設定する等、創意工夫を活かした特色ある学校づくりに取り組み、表現力が高まった。 - 専科教育では、児童の興味・関心・意欲が向上し、個性や能力を引き出すことができた。また、ALTや英語活動サポーターを配置したことで、児童が外国語を通じて言語や文化への関心を高めることができた。 - 福祉体験や職場体験を通して児童生徒に様々な知識や技能、社会の一員としての規範意識やコミュニケーション能力等を高めることができた。参加者 小学校：4年生852人 中学校：2年生882人 【課題】 「生きる力」の育成に向け、基礎・基本の徹底を図る教育の推進を行う必要がある。 - 亀岡市学力向上ビジョンの平成28年度目標到達点を見据えて、京都府学力診断テスト等の結果を検証して、指導方法の工夫や改善に努めることが必要である。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課・教育研究所	

推進施策	(2) 就学前教育の推進	
事業内容 実績 対象者等	① 公立保育所幼稚園研究協議会活動の充実と私立幼稚園、小学校との連携の推進 - 公立保育所幼稚園研究協議会の活動として、公開保育（年2回）、小学校授業参観（年1回）や研修会（年2回）等の活動を行った。 - 亀岡市公私立幼稚園交流会、研修会（年2回）、公開保育（年1回）を実施した。 「一人一人の幼児の発達と望ましいクラスづくり」を研究テーマに亀岡市立幼稚園教育研究会で公開保育実技研修等を行った。 ② 特別な支援が必要な園児に対する適切な指導体制の確立と教育相談の充実 - 就学指導委員会の委員35人を任命し、就学に関する指導助言、特別支援教育に関する研修と啓発等の活動を実施した。 - 通級担当者による発達検査、教育相談を実施 - 教育相談 128件（平成24年度96件） - 就学に係る巡回教育相談 47件（平成24年度31件） - 就学に係る相談 47件（平成24年度31件） - 特別支援が必要な幼児に対し、加配教諭を配置するとともに、小学校入学後の適切な支援が継続できるよう、専門機関や幼稚園・保護者や小学校による個別の連絡会を実施した。 - 適切な支援のため個別の支援計画や指導計画を立て、幼児の発達段階に応じた教育内容の充実に努め、遊びや体験を通して、望ましい生活習慣や態度を育んだ。 ③ 新幼稚園における特色ある教育プログラム及び幼児教育総合センター機能の検討 - 新幼稚園の開園に合わせ、未就園児遊びの広場の内容充実や教育相談の充実にに向けた検討を行った。	
成果 課題等	【成果】 - 研修会や公開保育を通して、幼児の育ちや幼児教育について理解を深めるなど、教師の指導力を高めることができた。 - 支援が必要な幼児の就学相談について、保健センターとの連携のもと効率・効果的な相談を行うことができた。 - 公立保育所幼稚園研究協議会の活動を通じて、公立保育所・幼稚園・小学校の交流と保育内容の向上を図ることができた。 - 市内公私立幼稚園教諭や関係者による交流会を実施し、幼児教育振興に関わる交流が深まった。 - 特別支援が必要な幼児一人一人について、個別の連絡会の活用や指導要録により、適切な教育指導ができた。 【課題】 - 小学校との連続性を確保するため、私立幼稚園や公私立保育所（園）はもとより、小学校との交流・連携を一層進めることが必要である。 - 特別支援が必要な幼児の早期発見、早期支援に向けて、一層充実に努める必要がある。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	教育総務課・学校教育課・教育研究所	

推進施策	(3) 健康教育・安全教育の充実	
事業内容 実績 対象者等	① 計画的な保健指導と安全指導の実施と充実 ・熱中症やインフルエンザ等の保健分野の指導や点検を計画的に行った。 ・教育委員会と各学校の安全担当者と連携し、避難訓練や校内安全点検等様々な機会をとらえて安全に対する指導を行った。 ② 食に関する指導の充実 ・教育委員会、学校給食センターと連携し、栄養教諭を中心に各学年単位で全国学校給食週間の取組をはじめ、発達段階に応じた栄養の話等食に関する指導を計画的に実施した。 ③ 豊かな心・人間関係を培う望ましい生活習慣の育成 ・芸術鑑賞や読書活動等体験学習を通して豊かな感性を育んだ。また、挨拶等の励行や他人を思いやる心が持てる生活習慣について指導した。 ④ フッ化物洗口によるむし歯予防事業（幼稚園・小学校）の推進 ・小学校 実施率 98.4% DMF 指数（1人平均虫歯数）0.03 ・幼稚園 実施率 100% ⑤ 喫煙・薬物乱用防止教育及び性教育の推進 ・各小中学校で、指導方法を工夫した取組と併せて、パンフレットの配布やポスター掲示等により、喫煙及び薬物乱用防止の取組を進めた。 ・亀岡警察署のスクールサポーターと協力して、児童生徒、教職員、保護者等を対象とした薬物乱用防止教室を開催した。 ・学校の年間指導計画に基づき、児童生徒の性教育を行った。 ⑥ 児童生徒の健康診断等の実施 ・教育委員会は、年度計画に基づき児童生徒の健康診断を実施した。	
成果 課題等	【成果】 ・平成8年から小学校で実施しているフッ化物洗口の取組を、平成23年1月から市立幼稚園の年長児においても実施した。小学1年生のDMF指数が0.1（平成22年度）から0.03（平成25年度）に改善された。 ・喫煙や薬物乱用防止教室及び性教育については、各学校の年間指導計画に基づく継続した取組により自分の体を大切にする意識が定着してきた。 ・各学校の食に関する指導計画に基づき、学校給食センターの栄養教諭と学校が連携した様々な取組により、日常の食生活に気づいて、朝食を食べ、苦手なものを考えて食べるなど、児童の望ましい食習慣が身についてきた。 ・健康診断等により疾患等の早期発見、健康について考える機会となった。 【課題】 ・保健指導、安全指導は学校と家庭の連携及び協力が必要である。 ・喫煙や薬物乱用防止教育及び性教育については、学校・家庭・地域が連携する中で指導を継続していく必要がある。 ・健康教育の今日的な課題に対応できるように、中学校における学校保健委員会を更に充実する必要がある。 ・経済的な面等から受診勧告書を配布しても受診しないことがある。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課	

推進施策	(4) 体力・競技力の向上	
事業内容 実績 対象者等	① 幼児・児童・生徒の体力・運動能力の向上 ・小中学校において、走る・跳ぶ・投げる等の新体力テストを実施した。 ・日常の授業はもとより、運動会等各種行事を通じて体力・運動能力の向上に努めた。また、中学校においては、部活動を通じて向上に努めた。 ② 小学校陸上運動交歓記録会・小学生駅伝（持久走）大会の充実 ・小学校陸上運動交歓記録会には、5・6年生全員が、また、小学生駅伝（持久走）大会は、5・6年生874人（48%）が参加した。 ③ 南丹地区小学校駅伝競走大会「京都丹波キッズふれあい駅伝」への参加 ・駅伝競走の部、持久走の部に18小学校の4・5・6年生144人が参加した。 ④ 中学校各種競技会の充実 ・中学校の各部活動においては、亀岡市、口丹波、京都府大会等の競技会に参加した。 ⑤ 小・中学校体育連盟への支援の充実 ・小中学校における体育活動の振興を図るため、小学校体育連盟への活動助成や中学校体育連盟への活動助成及び選手派遣助成を行った。 ⑥ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校の校種間連携による指導の充実 ・小中連携として、児童に中学校の体育教師が指導を行った。また、バスケットボール等において、小・中・高の合同練習会や交流会を開催した。	
成果 課題等	【成果】 ・小学生駅伝（持久走）大会には、参加希望者が年々増加し、定着した大会となってきた。南丹地区小学校駅伝競走大会（京都丹波キッズふれあい駅伝）において、持久走の部では大井小学校の女子が優勝、また、駅伝競走の部でも大井小学校が優勝する等、これまでの取組が成果となって現れてきた。また、参加することにより、自分の能力を知り、高めることができた。 ・小中連携の中で育ってきた中学生が、陸上競技、体操競技、バスケットボール競技で男女合わせて31人が近畿大会に出場した。また、陸上競技、体操競技、バスケットボール競技で、男女合わせて12人が全国大会に出場した。うち、陸上競技においては1人が3位入賞を果たす等競技力の着実な向上がみられた。 ・部活動に運動部活動地域連携再構築事業（地域のスポーツ指導者）を活用したことにより、指導面での充実を図ることができた。 【課題】 ・新体力テストの結果から全体をみると、跳ぶことに対しては良い成績がみられ、府平均を上回る学年が複数あるが、走る・投げるという分野では下回る傾向が見られ、これらを伸ばしていく必要がある。 ・小学校及び中学校における児童生徒の体力並びに運動能力の向上を図るためには、さらなる小中連携等の取組を進めるとともに、活動助成等を継続していく必要がある。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課	

推進施策	(5) 特別支援教育の充実	
事業内容 実績 対象者等	① 校内体制の充実および児童生徒の実態把握 ・教育相談（発達検査）実施件数 265件（平成24年度 227件） ② 関係諸機関、校種間連携による指導・支援の充実 ・通級指導教室を中心とし、各校（園）の具体的支援に係る相談活動の充実を図った。 - 具体的支援に係る巡回教育相談 6件（平成24年度 9件） ・教育研究所と連携し、校種間連携をテーマにした研修会を行った。（3回） ③ 交流及び共同学習の推進（特別支援学校・特別支援学級等） ・七夕交流会や地域学校を開催し、校種間・学校間の交流を図った。 ・各小中学校と特別支援学校との交流及び共同学習を行った。 ④ 就学相談と進路指導の充実 ・就学に係る相談件数 159件（平成24年度 136件） ・就学に係る巡回教育相談件数 103件（平成24年度 83件） ⑤ 特別支援教育支援員の増員による支援体制の充実 ・発達障害等により、学習面や生活面での指導・支援が必要な児童生徒に対して、一人ひとりの状態に応じて学習活動や日常生活の支援を行うため、特別支援教育支援員をすべての小中学校に配置した。 ⑥ 保護者及び地域社会への啓発の充実 ・亀岡市就学指導委員会の啓発部会等関係部署がそれぞれの機会をとらえ啓発を行った。	
成果 課題等	【成果】 ・各学校の実態や児童生徒の課題に応じた適切な支援により、児童生徒の安定した学校生活に大きく寄与することができた。 ・特別支援教育支援員の配置により、次のような成果がみられた。 - 児童生徒の課題に応じて効果的な学習支援ができた - 児童生徒が落ち着いて活動できるようになった。 - 実技教科や校外学習、学校行事の安全な実施ができた。 ・支援が必要な幼児の就学相談については、保健センターとの連携のもとに行うことができた。また、児童に対しても計画的に相談活動を進めることができた。 ・通級指導教室担当者と連携し、各種相談事業を実施することにより、担当者の専門性を生かし、各校（園）における幼児児童生徒の指導・支援ができた。 【課題】 ・支援が必要な児童生徒数が増加しており、さらなる支援員の増員配置を検討する必要がある。 ・就学指導委員会の活動は、保育所（園）や幼稚園から小学校への支援の継続を図るため、移行支援シートの活用や中学校卒業後の進学・就労を視野に入れた取組等、特別支援教育の円滑な推進に重要な役割を担っており、更に充実した活動を行っていく必要がある。 ・特別支援教育のさらなる充実を図るため、すべての教職員を対象とした研修等の実施により、資質向上を図っていく必要がある。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課	

推進施策	(6) 人権教育の推進	
事業内容 実績 対象者等	① 児童生徒の基礎学力充実と進路保障及び主体的に進路選択できる力の育成 - 基礎・基本の徹底による学力の向上を図るため、基礎学力充実推進事業の実施等により、それぞれの学校の実情に応じた取組を進めた。 - また、各校で基礎学力充実の取組等を行い、希望に応じた進路選択が行えるよう指導に努めた。 ② 教育活動全体を通じた計画的な人権教育の推進 - 各学校の人権学習年間指導計画に基づき、基本的人権をはじめ、様々な人権問題に対する正しい理解と認識の向上を図られる授業を展開した。 - 児童生徒の人権意識や人権感覚を高めるため、人権強調月間等において、人権標語やポスターの作成等多様な取組を実施した。 ③ 人権尊重の実践的態度を育成する教育活動の充実 - すべての教育活動に人権教育の視点で推進し、主体的な学習活動が展開されるよう、体験学習の中で障害者や高齢者とのふれあいや交流を取り入れ、児童生徒の理解を深めた。 ④ 日常的・継続的な家庭・地域社会、関係機関及び校種間の連携 - 平和月間の取組の一つとして、関係機関と連携して「ヒロシマに学ぶ親子平和の旅」を実施した。(14組28人) - 教育研究所では、校種間連携で取組む人権教育の進め方の講座を実施した。	
成果 課題等	【成果】 - 児童生徒が、福祉体験や職場体験学習における人とのふれあいや交流をとおして、人の立場に立って考えることの大切さや理解することの大切さを実感することができた。 - 平和や人権の大切さを体感する機会として「ヒロシマに学ぶ親子平和の旅」や人権強調月間等を中心とした多様な取組により、平和や人権について改めて考える機会づくりとなった。 【課題】 - 学校、家庭、地域等が一体となって、豊かな人間性や人権意識を高めるための人権教育の取組を、今後も継続していく必要がある。 「自分の大切さとともに他人の大切さを認めることができる」ことが態度や行動に現れるように、言葉かけやあいさつなど日常における人との関わりを大切にすることを、継続して多様な機会提供に努めていく必要がある。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課・教育研究所	

推進施策	(7) 生徒指導、教育相談の充実															
事業内容 実績 対象者等	① いじめを許さない学校、学級づくりの推進 ・いじめ防止対策推進法の施行により、市の基本方針、学校における基本方針策定に取り組んだ。 ・学校は、いじめ調査や独自のアンケート等により児童生徒の状況把握に努め、人権尊重の視点に立った全ての教育活動により、いじめを許さない学校、学級づくりを進めた。															
	② 教育相談事業の充実 ・幼児、小中学生、保護者、教職員を対象に実施した。 教育研究所での相談件数：417件（平成24年度 407件） ・子育てや教育上の諸問題全般について相談を受けた。 ・相談には、臨床心理士と教育相談員で対応した。															
	③ 適応指導教室の充実及び不登校に係る民間施設や専門機関との連携 ・不登校や登校しぶり等の悩みを抱える小・中学生を対象に「心の居場所」として適応指導教室を開設した。															
	<table><tr><th>教室名</th><th>対象</th><th>通級人数</th><th>開設日数</th><th>延べ人数</th></tr><tr><td>やまびこ教室</td><td>小学生</td><td>2人</td><td>163日</td><td>196人</td></tr><tr><td>ふれ愛教室</td><td>中学生</td><td>14人</td><td>163日</td><td>631人</td></tr></table> ※ふれ愛教室では、メンタルフレンド（心の友達）の協力を得た。	教室名	対象	通級人数	開設日数	延べ人数	やまびこ教室	小学生	2人	163日	196人	ふれ愛教室	中学生	14人	163日	631人
	教室名	対象	通級人数	開設日数	延べ人数											
	やまびこ教室	小学生	2人	163日	196人											
	ふれ愛教室	中学生	14人	163日	631人											
	④ スクールカウンセラー活用事業の推進 ・スクールカウンセラーを2小学校、8中学校に継続配置するとともに、1小学校に緊急配置を行い、児童生徒・保護者等の相談に対応した。															
	⑤ 生徒指導上の問題行動に対する指導体制の充実とスクールサポーターの積極的活用 ・学校が、生徒指導部会等による組織的で、迅速かつ適切な対応とあわせ、スクールサポーターとの連携による生徒指導を行った。															
	⑥ 不登校対策支援員の配置 ・1小学校、1中学校に不登校対策支援員を配置した。															
⑦ ネットいじめ等の諸問題に対する児童生徒・保護者への指導・啓発の推進 ・携帯電話、スマートフォン、パソコン等の情報機器によるいわゆるネット社会の対応として、いじめ等の諸問題・事象の発生を未然に防止するため、教職員研修をはじめ児童生徒や保護者への周知・啓発活動を展開した。																
⑧ 児童虐待の早期発見及び関係機関と連携した早期対応 ・要保護児童対策地域協議会を中心に、月1回の連絡調整会議を開催する等、児童虐待の早期発見と早期対応・支援に努めた。																

成 果 課 題 等	【成果】 ・児童生徒直接のセラピーや相談等の件数が増加した。 ・学校、保育所（園）訪問やポスター及びリーフレット配布等の広報により、研究所の相談内容を広く周知し、活用してもらえた。 ・学校からの相談申込を受けて問題を抱える児童生徒の担任や教育相談担当者との相談を行い、児童生徒の理解を深め、共有した。 ・定期的に保護者会を開催し研修・保護者間交流を深めるとともに、通級生の現状等について保護者との連携を深めた。 ・通級生の学校復帰を支援するため、在籍校や医療機関と連携を図った。 ・スクールカウンセラーの緊急配置等、学校のニーズに即した迅速な対応を行うことができた。 ・亀岡警察署や家庭支援総合センターとの緊密な連携により問題事象の拡大や深化を食い止め、早期解決に繋がった。 ・児童虐待については、各小中学校の情報をもとに関係機関とのスムーズな連携が図れた。 ・小中生徒指導対策会議で、継続した生徒指導への情報共有を図った。 ・亀岡警察署と連携し、小中学校で児童生徒を対象にした「非行防止教室」により、規範意識等を高めた。 【課題】 ・課題が多様化している中、今後もスクールカウンセラーや教育相談担当者、特別支援教育コーディネーター、各関係機関との密接な連携が必要である。 ・学校復帰に向けての学校・家庭・関係機関との連携の強化が必要である。 ・教育相談件数の増加に伴う相談体制を整備する必要がある。 ・「別室登校」については、各学校においてより実践的で効果的な対応等、継続した情報発信が必要である。 ・不適応を示す子どもたちに対して、より安定した居場所づくりと心のケアを工夫していく必要がある。 ・児童生徒の問題事象の動向に的確に対応するとともに、規範意識の高揚に向けた周知・啓発活動の取組を強化していく必要がある。 ・インターネットは、使い方によっては被害にあうばかりか、加害者として事件に巻き込まれる危険もある。特にLINEを介しての問題は増えている。情報モラルと情報セキュリティ等について児童生徒はもとより保護者の理解を深める取組を進める必要がある。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担 当 課	学校教育課・教育研究所	

推進施策	(8) 今日の課題に応える教育の充実	
事業内容 実績 対象者等	① 国際理解教育の充実 - 英語指導助手（ALT）3人と小学校英語サポーター5人を雇用して小中学校等の英語教育を推進した。 ② 教育用コンピュータ、電子黒板等情報通信機器の有効な活用の推進 - 教育用コンピュータの更新や電子黒板等情報通信機器の整備を行い、有効な活用の推進を図るため、ICT（情報通信技術 Information and Communication Technology）支援員を配備し、活用支援を行った。 ③ 情報活用能力に関する指導の充実 - 小学校教育研究会で指導資料の作成や指導事例発表を行い活用方法の共有を図り、活用事例を各学校で情報共有した。 また、各学校配備のICT支援員による活用事例の紹介やアドバイス等を行い指導の充実を図った。 ④ 実践的な環境教育の推進 - 学校が、緑のカーテンとして、ゴーヤの栽培等を通して、地球温暖化防止等環境についての学習を進めた。 - 各教科の学習内容に環境教育の視点も取り入れて学習を行った。また、総合学習の時間を用いて川の水の検査等を行い自分たちの身の回りの環境について考えた。 総合学習：ペットボトル集め（ごみのリサイクル）、ビオトープ（環境、雨水の利用）、 ⑤ 体験活動を重視した小・中学生の道徳教育の充実 - 職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動を生かす等、児童生徒の発達段階や特性を考慮した工夫のある指導を行った。 - 道徳教育全体計画及び年間計画の下、読み物教材等を活用し、道徳教育の充実を図った。	
成果 課題等	【成果】 - 小学校においては、英語サポーターの活動により外国語への興味を示す等効果が表れている。また、中学校の英語科の授業では、英語指導助手の活動を通して、聞く、話す等の総合的なコミュニケーション能力の育成に効果が表れた。 - 電子黒板や書画カメラの活用により、視覚的な理解を高めたほか、学習意欲の向上が図れた。また教育用パソコンの更新により円滑に操作でき、効率的な授業運営が図れた。 - タブレット端末をグループ学習等に活用することにより、子どもたち同士が教え合い学び合うなどの学習ができた。 - 緑のカーテンや炭堆肥を活用した取組で、地球温暖化防止等の環境に対する一人一人の心がけが重要であるとの意識が高まった。 【課題】 - 情報機器を積極的に活用するとともに、学習効果につなげるため、教職員の研修機会の充実が必要である。 - 環境問題に対して継続した学習が必要である。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課・教育研究所・教育総務課	

重点目標	2 ふるさとを愛する心の育成
------	----------------

推進施策	(1) 体験的活動の推進	
事業内容 実績 対象者等	① KYO発見 仕事文化体験活動推進事業等による学習活動の充実 ・児童生徒が自分らしく生きる力をつけるために、京都府の「KYO発見 仕事・文化体験活動推進事業」を活用し、小学校は4年生を中心に、中学校は2年生を対象に体験活動を実施した。 ② 地球環境子ども村、NPO等と連携した環境学習・体験学習の推進 ・カーボンマイナスプロジェクトの一環として、小学校3校で学校農園に炭堆肥を活用し、野菜や水稻を栽培した。 ・専門的な知識や貴重な経験を有するゲストティーチャーを招いた学習や学校支援ボランティアによる活動を進めた。 ③ 児童生徒によるボランティア活動の推進 ・8中学校の生徒会を中心とした五円玉募金、ペットボトルキャップ集め、インクカートリッジ回収等、児童生徒による積極的なボランティア活動が展開された。 ④ 亀岡の歴史、文化、自然を通したふるさとの学習「かめおか学」の推進 ・ふるさと亀岡への愛着や誇りを育むために、亀岡の歴史・文化・自然等を通したふるさと学習「かめおか学」を小中学校9年間を通した教育課程に位置づけができるよう、市内全小中学校で取組を進めた。 ⑤ 地域ふれあいサイエンスフェスタの充実 ・地域ふれあいサイエンスフェスタ2013は、科学や環境、ものづくりをテーマに、地元企業等が提供する最新の科学技術に触れ、体験することを通して、サイエンスの不思議さや奥深さを味わう場を提供できた。 51ブース 3ステージ 来場者 約4,000人	
成果 課題等	【成果】 ・ふるさと学習「かめおか学」の取組を通して、地域の身近な題材からふるさとを学び、ふるさとへの思いを深めていくことができた。 ・サイエンスフェスタの「地域のサイエンスコーナー」には、地元企業の参加も増え、内容的にも充実を図ることができた。 ・かつてサイエンスフェスタに参加した人がボランティアとして再び参加するという良い循環が起きている。 ・多様なボランティア活動を通じて、助け合いや思いやりの心を育む教育が浸透した。 【課題】 ・ふるさと学習「かめおか学」の取組を更に充実させる必要がある。 ・サイエンス事業については、更に地域をあげた取組として大学や地元企業の協力を広げていく必要がある。 ・各小中学校の体験的活動事業は、現場の実情を体感できる貴重な機会として、継続して実施していく必要がある。 ・中学生の参加が見込めるよう、参加しやすい新しい枠作りの検討が必要である。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課・教育研究所	

推進施策	(2) 豊かな感性を育む教育の推進	
事業内容 実績 対象者等	① 亀岡市学校美術展覧会の開催 ・ 亀岡市学校美術展覧会において、児童生徒の絵画、版画、工作等の作品が出展された。(11月16日・17日 城西小学校体育館) ② 市立幼稚園子ども展の開催 ・ 亀岡市立幼稚園子ども展において、幼稚園児の絵画、共同作品等を展示した。(11月30日～12月1日、ギャラリーかめおか) ③ 「本物の舞台芸術体験事業」等による演劇やミュージカル等の鑑賞機会の提供 ・ 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」を活用して、児童生徒が優れた舞台芸術の巡回等を鑑賞する機会を提供した。 亀岡小学校：現代舞踊、西別院小学校：ミュージカル ・ 「次世代文化継承・発展事業」を活用して、児童生徒が文化芸術体験事業に係る専門家を講師として招聘し、本物の文化・芸術を体感する機会を提供した。 蔀田野小学校：児童が「佐伯灯籠」を題材にニュース番組を作成した。 ・ 「劇団四季ミュージカル」小学生特別公演招待枠を活用し鑑賞の機会を提供した。 安詳小学校・西別院小学校・曾我部小学校・吉川小学校・畑野小学校・青野小学校・川東小学校・保津小学校・つつじヶ丘小学校・南つつじヶ丘小学校 ④ 児童生徒の読書習慣や読書意欲の向上 ・ 多くの小中学校で朝の10分間読書や、午後の授業のスタート前に読書の時間を設けて実施した。	
成果 課題等	【成果】 ・ 子どもたちに文化・芸術を体感できる多様な機会を提供することにより、興味・関心の向上とともに豊かな感性の醸成を図り、道徳・情操教育の向上が図られた。 ・ 優れた演劇に触れるきっかけを与えることにより、明日への活力を生み出すきっかけとなった。 ・ 朝の10分間読書等の実施により、児童生徒が休憩時間にも図書室を利用する等、読書意欲の向上を図ることができた。 【課題】 ・ 児童・生徒の多様な興味や関心に応えられるよう、学校図書室の蔵書を充実していく必要がある。 ・ 子どもたちが本物の文化芸術等に触れ、より一層創造力や感受性等を高めていく機会を充実させる必要がある。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課・教育総務課	

推進施策	(3) 地域の教育機能の活用	
事業内容 実績 対象者等	① 学校評価等を活用した開かれた学校づくりの推進 ・学校経営計画に基づく経営計画の策定と内部評価及び外部評価と公表を行った。 ② 自然や歴史、伝統文化等の地域学習やクラブ活動における地域人材の活用 ・様々な経験、知識や能力を持った地域の方々の力を子どもたちの豊かな成長や学校教育の充実に活用するため、社会人講師を招聘した。 ③ 学校支援地域本部事業の拡大 ・亀岡市学校支援地域本部事業は、学校支援のために地域ボランティアを募集し、学校へ派遣し、学校・家庭・地域が一体となる地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える事業であり、中学校区ごとの実施計画に基づき、実施した。今年度は、別院中学校区及び南桑中学校区の2校区で実施した。	
成果等 課題等	【成果】 ・学校経営計画に基づく進捗状況の把握と内部評価及び外部評価の実施により、学校運営等を再点検することができた。 ・地域学習やクラブ活動に専門的知識を有した社会人講師から学ぶことで、地域人材の活用と子どもたちの興味・関心を高める学習活動が実施できた。 ・地域全体で学校教育を支援する体制づくりが構築できた。また、地域の人々との関わりや支えの中で、子どもたちが多くのことを感じ、学ぶことができた。 ・学校支援地域本部事業では、地域の人々の持つ力を学校ニーズに結びつけ、野菜や米づくり、登下校見守り、進路指導、本の読み聞かせ、席書大会等の活動を行うことができた。 【課題】 ・内部・外部評価の活用等により、より一層保護者や地域住民の理解を深める必要がある。 ・学校と地域との連携を強化する中で、児童生徒が地域への愛着を高める等推進体制を拡充していく必要がある。 ・学校支援地域本部事業終了後も、引き続き、地域全体で学校を支えていく活動が継続していくよう進めていくことが重要である。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課・社会教育課	

重点目標	3 学校の教育力の向上と魅力ある学校づくりの推進
------	--------------------------

推進施策	(1) 小中一貫教育の推進	
事業内容 実績 対象者等	① 施設一体型小中一貫校（川東小・高田中）の平成27年度開校に向けた取組の推進 ・小中一貫教育研究会をはじめ小中一貫教育推進会議、学校運営専門部会小中一貫教育課程専門部会等を開催した。 ・小中一貫校だよりの発行やホームページにより啓発に努めた。 ② 9年間を見通した系統的・継続的な年間学習指導計画の作成 ・京都教育大学の教授を招聘し、国語科・算数科・数学科を中心に小中9年間を見通したカリキュラムの編成について検討した。 ・外国語活動・英語教育を特色ある取組の一環として捉え、小中学校から各2人の教員を選出し、小学校1年～6年までのカリキュラム作成に取り組んだ。 ③ 小中学校教員による小学校専科授業・TT授業の実施 ・小中連携加配による外国語活動並びに音楽科において中学校教員が小学校教員とともにTT（ティームティーチング：数人の教師がチームを作り、複数学級の生徒を弾力的にグループ分けしながら行う授業の形態。）授業を実施した。また、小学校内において教務主任や加配教員を中心に算数科・理科・体育科において小学校専科授業を実施した。 ④ 小中学校の教職員研修や学校行事交流の実施 ・川東小学校・高田中の全教職員対象の研修として東山開晴館（京都市）へ、市内全小中学校の代表教職員対象の研修として凌風学園（京都市）へ行き、両校校長からの説明と校舎見学で見識を深めた。 ・年4回の合同授業研究を実施し、小中学校の授業の成果・課題を明らかにした。 ・小中合同行事として、登山、体育祭、文化祭を計画したが、天候の関係で登山は実施できなかった。	
成果 課題等	【成果】 ・小中一貫校運営方針の決定や進捗状況の確認等をしながら進めることができた。 ・特色ある教育活動について共通認識を図ることができ、焦点化した準備ができるようになった。 ・川東小学校・高田中学校以外の市内小中学校の教職員を対象に先進校視察を実施することにより、小中一貫校教育の啓発をすることができた。 ・小学校1年生からの外国語活動の導入に向け朝学習（15分）を使ったことにより、小学校教員の英語指導力向上のための適切なカリキュラムが作成できた。 【課題】 ・小学校での外国語活動導入について、高学年は中学校教員が中心となり指導するが、低・中学年は小学校教員が指導する予定であるため、指導力向上に向けた研修が必要である。 ・全教科9年間のカリキュラム編成に向け、小中教職員の連携が必要である。 ・外国語活動の指導時間に割り当てる時間をどのように確保するか、工夫が必要である。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校教育課	

推進施策	(2) 学校規模適正化の検討	
事業内容 実績 対象者等	① 適正な学校規模の調査・研究 ・ 亀岡市立小学校・中学校における児童生徒数の現状を踏まえ、学校教育活動の充実を図り、適正な学校規模のあり方を検討するため、他市の事例や情報の収集・調査を行った。 ・ 適正な学校規模に関する基本方針の策定に向けて、平成26年度から保護者、地域、学校等の関係者による学校規模適正化検討会議を設置することとした。	
成果 課題等	【成果】 ・ 学校規模適正化検討会議の設置に向け、現状把握と目標、スケジュールなどの計画をまとめた。 【課題】 ・ 少子化の進行や市域の人口動向等社会的要因を踏まえ、適正な学校規模について、学校の教育活動充実と学校の教育力向上を視点として検討をすすめる必要がある。 ・ 学校は歴史と伝統ある地域のシンボルであり、適正化の取組は地域や保護者から注目されている。検討会議で十分議論し、児童生徒にとって最適な方向性を打ち出していく必要がある。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	教育総務課	

推進施策	(3) 教員の資質・能力の向上	
事業内容 実績 対象者等	① 各種研修会の充実と校内研究、研修による指導方法の工夫・改善への支援 ・ 各校及び教育研究所が開催する研究会への参加並びに府教委が実施する初任者・新規採用者研修、10年研修、指導者養成研修等への派遣を行った。 ② 研究指定事業を活用した学校力の向上、教員の資質能力の向上 ・ 府教委が実施する事業の指定校（千代川小学校、南つつじヶ丘小学校、亀岡中）による研究発表大会や公開授業研究会、市教委事業の指定校（亀岡小学校、大井小学校）による公開授業研究会が開催された。 ・ 研究指定事業や公開授業研究会等に多数の教職員が参加した。	
成果 課題等	【成果】 ・ 質の高い学力の充実に向けた授業づくり等の研究、研修とともに、教職員の資質や能力を高めるための研修を充実することができた。 ・ 研究発表等を開催した当該校では、いずれも教職員が協働して実践を進めている等、学校力の向上が見られた。また、その成果が他校にも波及している様子が見られた。 【課題】 ・ 教師が専門職としての研修を深め、幅広い知識や教養を身につけるための多様な研修機会が必要である。 ・ 社会の変化や今日的な課題に対応できるよう、教職員自身が社会性を身に付け、豊かな感性等を養い、更なる資質向上を図らなければならない。 ・ 服務規律を確保し、公教育に課せられた使命と責任を果たし、より一層の信頼確保に努める。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	教育総務課・学校教育課・教育研究所	

推進施策	(4) 教育研究所事業の充実
事業内容 実績 対象者等	① 学力向上に向けての具体的な方途の開発・発信 ・学力向上に向けての「亀岡市学力向上ビジョン」を作成した。 ・亀岡の学力状況の把握及び課題点を整理した。 ・学力診断テストにおける個別の学力分析方法を研究した。 ・教職員の資質向上（指導力、実践力）に向けての教職員研修を実施した。 ② 教職員の指導力向上に必要な教職員研修講座の充実 ・教職員研修講座を48講座開催し、延べ1,696人が参加した。 ③ 特別支援教育・教育相談など学校現場のニーズに対応する研修の充実 ・特別支援教育講座を市立保育所特別支援保育研究会と共催で2回実施した。 ・かめおか学講座 亀岡の豊かな自然、環境、歴史、文化等の多方面からのアプローチにより講座を3回実施した。 ・幼児教育・保育講座 市立保育所幼稚園研究協議会との共催講座として4回実施した。 ④ 幼児・児童・生徒の学習活動支援および保幼小中連携の推進 ・保・幼・小学校連携の視点で小学校の授業の参観を通して、研究協議し、連携充実を図った。 ・障害のある子ども達の育ちの連続性を確保するための保育所、幼稚園、小・中学校との継続的な連携のあり方を研修した。 ・人権教育の視点で子ども達の学びや育ちを捉え、それぞれの成長段階に適応した指導方法について研修した。 ⑤ 時代の要請、亀岡の独自課題に応じる調査研究活動の推進 ・小中連携型一貫教育の特性を生かした教育課程の創造と学力充実、向上に向けた研究を行い、モデルカリキュラムの試作・検討（国語・算数・数学・英語）を行った。 ⑥ 問題を抱える子ども等の自立支援事業活用によるいじめ対策等生徒指導の推進 ・亀岡市の学校不適応事例における実態を把握し、事例研究を通して児童生徒の学校不適応状況改善に向けての実践研究を行い、アセスメント票等を活用した支援のあり方を検討した。
成果 課題等	【成果】 ・個別の学力診断テスト結果を細部まで分析した。 ・授業づくり講座の開催は、次代を担う若手の教師力育成及び意識向上に効果があった。 ・学校支援センターとしての機能を充実させ、実態に即した教育課題をタイムリーにとらえた効果的な研修や調査研究を実施し、幼稚園、小中学校等の教育活動を支援することができた。 ・専門的な教科、領域別の研修では、各学校の課題に応じた研修を実施し、教職員の資質・能力の向上を図ることができた。 ・放課後からの講座実施、地元講師による講座等地の利を活かした研修ができることにより受講者の増加につながった。 ・小中学校間の系統的な言語力の育成にかかる視点や、小中学校間をつなぐ指導計画立案の必要性等、児童生徒の発達段階に即した指導計画の重要性について学ぶことができた。 【課題】 ・各学力分析の結果を十分に踏まえ、連携を更に深めながら、指導方法の工夫や改善に努める必要がある。

	・参加しやすい研修形態を検討していく必要がある。 ・保幼小中連携教育の研究実践においてさらなる充実と各研究団体とつなぐ、研究所の連携機能を発揮する必要がある。 ・公開授業、公開保育等の設定については、開催曜日、時間設定等の工夫改善が必要である。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	教育研究所	

重点目標	4 安全安心で充実した教育環境の整備
------	--------------------

推進施策	(1) 安全・安心で快適な教育環境の整備	
事業内容 実績 対象者等	① 学校施設耐震化の計画的推進 ・ 亀岡小学校耐震補強・大規模改修工事 ・ 安詳小学校耐震補強・大規模改修工事 ・ 川東小学校・高田中学校改築工事 ・ 亀岡市立幼稚園改築工事 ② 学校・園施設老朽箇所等の計画的整備 ・ 亀岡小学校プール改修工事（設計業務委託含） ・ 大井小学校校舎防水工事設計業務委託 ・ 大成中学校屋内運動場屋根修繕 ③ 学校施設・設備の日常的な点検活動 ・ 小学校 修繕 383箇所 ・ 中学校 修繕 186箇所 ・ 幼稚園 修繕 14箇所 ④ 快適な教育環境の整備 ・ 施設のバリアフリー化：川東小学校・高田中学校改築工事 ・ トイレ(洋式化・悪臭対策)：別院中学校・大井小学校・城西小学校 ・ 階段部手摺設置：城西小学校 ・ 雨漏り修繕：蕨田野小学校・城西小学校	
成果 課題等	【成果】 ・ 耐震化事業の推進により、平成25年度末における亀岡市の学校施設耐震化率は、95.5%となった。（平成24年度94.6%）平成25年度末の全国平均は、88.9%である。 ・ 学校施設の老朽化対策として、施設整備工事及び施設修繕を行い、機能回復を図った。 ・ 施設一体型小中一貫校(川東小・高田中)の教室棟(第Ⅰ期改築工事)が完成した。 【課題】 ・ 未耐震の学校施設については、平成27年度末の耐震化完了に向けて、国の補助金等の活用により、耐震化・大規模改修工事を進める必要がある。 ・ 学校耐震化事業と併せて、老朽化対策等教育環境の整備を図る必要がある。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	教育総務課	

推進施策	(2) 安全指導、安全管理の充実	
事業内容 実績 対象者等	① 学校安全対策委員会を中心に自治会・PTA等と連携した学校安全体制の充実 ・関係機関・団体で構成する亀岡市学校安全対策会議を2回開催し、児童生徒の安全対策について協議を行った。 ・各学校安全対策委員会は、1校当たり平均2.1回開催された。 ・自治会、PTA、子ども会、青少協等の地域の皆さんの参画により、児童生徒の安全対策についての情報交換、校内外の危険箇所の確認、学校安全対策の計画等について協議した。 ② 学校安全対策協力員の配置と地域の見守り隊等の協力による安全対策の推進 ・18小学校、7中学校に延べ210人の協力員を配置した。 ③ 通学安全対策の充実及び学校安全マップの定期的な見直しと活用 ・校区の見回り、危険個所の点検を行い児童生徒に周知徹底を図った。また、見守り隊との連携を図り、安全な登下校に努めた。 ・学校安全マップの危険個所の見直しを進め、保護者や地域へ情報提供を図った。 ・詳徳中学校通学路の安全確保のため約200mのコンクリート舗装、また、南桑中学校通学路の防犯・安全確保のため約500mの間に防犯灯を設置した。 ・別院中学校、育親中学校の生徒の通学時の交通安全面、防犯面を確保するためスクールバスを各2台配車した。 ④ 「地域子ども出迎えデー」の推進と学校安全メールシステムの活用推進 ・「地域子ども出迎えデー」の啓発用「のぼり旗」を自治会等に配付した。また「キラリ☆亀岡おしらせ」への啓発文を定期的に掲載した。 ・学校安全メールシステムの活用を図った。(登録者数3,968件・配信件数7件) ⑤ セーフスクールの推進 ・亀岡市立曾我部小学校で国際認証インターナショナルセーフスクールの基準に沿った活動を行い、認証に向け取組を進めた。 ⑥ 危機管理マニュアルに基づく安全体制の確立と研修・訓練の計画的な実施 ・危機管理マニュアルの周知徹底を図り、計画的に避難訓練等を行った。 ・年間計画に基づき安全等について研修を実施した。	
成果 課題等	【成果】 ・通学路の安全対策については、各関係機関が連携し危険個所への対策を進めた。 ・校区内で子どもを見守るパトロール等が関係機関の協力により各地域で行われ、安全確保が図られている。 【課題】 ・学校安全メールは、犯罪抑止力としても効果が見られることから、登録者の増加に向けた周知やメール内容の充実とともに継続した取組を行っていく必要がある。 ・「セーフコミュニティ」の趣旨を踏まえ、安全で安心なまちづくりに向けて、学校と地域や保護者が一体となって取組を継続していく必要がある。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	教育総務課・学校教育課	

推進施策	(3) 学校図書、学習教材・資機材の充実	
事業内容 実績 対象者等	① 学校図書館図書蔵書数の標準冊数達成に向けた蔵書数の充実 ・学校図書 7, 900 冊を各学校に整備した。特に、蔵書整備率の低い学校に対して重点的に整備を行った。 ② 理科・数学の学習教材・資機材の充実 ・国の理科教育設備費補助金を活用し、理科実験用備品等を整備した。 小学校 解剖顕微鏡他 314 品 中学校 水圧実験器セット他 85 品 ③ 教育の情報化に向けた学習資機材の整備 ・8 小学校のパソコン教室の端末機器を更新したほか、各校 10 台のタブレット端末の整備、全普通教室に電子黒板機能付きプロジェクター及び書画カメラ等を整備した。	
成果 課題等	【成果】 ・新刊本の整備により、本への関心を高め、読書により児童生徒が言葉をとおして想像力を育くみ、思考能力を高めることにつながった。 ※平成 25 年度末の標準冊数に対する整備率 小学校 82.2% 中学校 70.2% 全体 77.7% ・国の平成 24 年度補正予算を活用し、例年の 1.5 倍にあたる理科実験用備品を整備することで、理科実験において器具等に触れる機会が増え、理科学習への興味関心意欲の増大につながった。 ・ICT 機器を効果的に活用し、子どもたちの興味・関心を高め、分かりやすく主体的な学習を促す授業を展開できた。 【課題】 ・学校図書蔵書の整備率を向上するためには、経年劣化による廃棄等を考慮し、それを上回る整備を今後も引き続き行う必要がある。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	教育総務課	

推進施策	(4) 学校給食の充実	
事業内容 実績 績 対象者等	① 地元産食材の利用推進と、安全・安心で、栄養バランスに配慮した給食の提供 ・主要野菜の地場産使用割合の向上に努めた。主食の米は、亀岡産のキヌヒカリを100%使用した。 ・地元産食材(亀岡牛・賀茂なす・万願寺とうがらし・かぶら・水菜・黒豆)を使用した献立を実施した。 ・加工食品は、原材料・配合表・製造工程表を基にサンプル品を取り寄せる等安全性を確認して選定した。 ② 給食と「きゅうしょくだより」での広報を通じた食育の推進 ・給食献立内容等を、亀岡市ホームページに掲載した。(きゅうしょくだより・きゅうしょくカレンダー・予定献立表)(毎月) ・「きゅうしょくだより」「予定献立表」は、各家庭に配布するとともに、学校内において児童の給食指導や食育に活用した ・平成26年3月2日発行の「キラリ☆亀岡」に学校給食センターの概要や給食の調理工程等の特集にて掲載した。 ③ 食物アレルギーを有する児童への給食の取組みと適切な対応のための学校給食センター・学校・保護者との連携の強化 ・アレルギー対象児童を考慮し、ノンアレルギー食材を積極的に使用した。 ・アレルギー対象児童の保護者にはアレルギーの原因となる食材に色づけをした献立表を個人別に配布し、学校・学級担任と連携を図った。 ④ 中学校給食についての調査・研究 ・他市の学校給食の視察を行う等、給食のアレルギー対策や地産地消等食の安全、更に、中学校での給食のあり方等総合的に調査・研究に努めた。	
成果 課題等	【成果】 ・野菜の地場産使用割合25.5%(平成24年度25.2%)、亀岡産キヌヒカリと地場産野菜を併せた使用割合は、56.6%(平成24年度56.5%)となり、ともに増加した。食材の検収や衛生管理体制の確立を図り、安全・安心で栄養バランスの摂れた学校給食を提供することができた。 ・アレルギー児童への対応を積極的に努めるとともに、食の情報収集を的確に行い、保護者に安全性の周知を図った。 ・給食試食会や「きゅうしょくだより」を通じて学校給食の意義・役割等について保護者に周知を行い、児童に対しては栄養教諭が学校と連携して食育指導の充実を図った。 【課題】 ・地場産野菜の使用割合の一層の推進が必要である。 ・食物アレルギー対象児童の保護者、学校・学級担任、学校給食センター間の連携をより密接にする必要がある。 ・給食において異常を発見した時は、小学校、学校給食センター、教育委員会等が連携を密接にして、協議を行い迅速な対応をする必要がある。 ・亀岡市の学校給食のあり方(中学校昼食含む)について、今後検討の場を持って進めていきたい。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	学校給食センター・学校教育課	

推進施策	(5) 就学・修学への支援	
事業内容 実績 対象者等	① 経済的に就学困難な小・中学生への援助費の支給 ・経済的な理由で就学が困難な小学生・中学生を対象に、就学援助費（学用品費、学校給食費、修学旅行費等）を支給した。 小学校 要保護 79 人、準要保護 841 人 合計 920 人 (全児童に占める割合は 18.2%) 中学校 要保護 64 人、準要保護 477 人 合計 541 人 (全生徒に占める割合は 20.2%) ② 高校生・大学生を対象とした奨学金、入学激励金の支給 ・経済的な理由で修学が困難な高校生・大学生を対象に、学費等の修学資金の一部を助成するため、奨学金及び入学激励金を支給した。 高校生 奨学金 156 人、入学激励金 58 人 大学生 奨学金 121 人、入学激励金 35 人 ③ 就園奨励費補助金の支給 ・幼児教育の振興を図る観点から、保護者の所得状況に応じた経済的負担の軽減等を図るため、公立幼稚園保育料の減免及び私立幼稚園就園奨励費補助金の交付を行った。 平成 25 年度幼稚園就園奨励事業 私立幼稚園 減免対象者 681 人 減免金額 72,699,200 円 (平成 24 年度に比べて 42 人 10,317,900 円増加) 公立幼稚園 減免対象者 8 人 減免金額 190,000 円 (平成 24 年度に比べ 対象者 同数 5,000 円減少)	
成果 課題等	【成果】 ・就学援助制度を活用して、対象となる小学生・中学生への支援を行うことにより、円滑な学校生活と教育の機会均等を図ることができた。 ・国や府の制度を補完する奨学金等支給制度により、負担軽減と修学の促進につながっている。 ・保護者の所得状況に応じて経済的負担を軽減していたが、平成 25 年度から多子世帯負担軽減を拡充するため、従来条件に加え子ども 3 人以上の世帯については所得制限を廃止し、補助限度額が新設された。このことにより、公・私立幼稚園間における保護者負担の格差の是正を図り、幼稚園への就園機会の確保が図れた。 【課題】 ・公立・私立高校とも、実質的に授業料が無料になることから、奨学金支給額算定の見直しが必要である。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	教育総務課・学校教育課	

重点目標	5 生涯学習活動の推進
------	-------------

推進施策	(1) 人権教育・人権学習の推進			
事業内容 実績 対象者等	① 多様な学習内容・機会の提供 ○市民等への人権に関する学習機会を提供した。 ・人権教育講座の開催 4 回開催 参加総数 3 9 4 人 ・人権問題学習講座等の開催 4 回開催 参加総数 6 3 人 ・平和・人権学習会等の開催 1 回開催 参加総数 4 8 人 ・第 3 1 回亀岡市女性集会の開催（記念映画・5 分科会） 参加人数 6 7 5 人 ・参加型人権学習会の開催 2 回開催 参加総数 6 4 人 ○人権教育活動のための指導者の資質向上を図った。 ・人権教育指導者研修会の開催 3 回開催 参加総数 3 0 5 人 ・女性リーダー視察研修の開催 1 回開催 参加総数 2 0 人 ② 自主的な人権学習活動への支援 ・人権啓発推進協議会等への補助金を交付した。（7 地区） ・人権啓発推進協議会等事務局担当者会議を開催した。 2 回 ・人権教育啓発指導員を派遣した。5 7 回 延べ受講人数 2, 4 1 8 人 ・人権啓発ビデオを貸出した。 1 0 6 本			
	【成果】 ・個別の人権課題に関する取組として、女性・子ども・同和問題・ネットいじめ等の人権課題に関する講座を開催し、市民に学習機会を提供することができた。 ・女性集会のアンケート調査では、家庭・地域・職場等での人権問題の解決に向けての行動について、自分の一步を「ふみ出している」「ふみ出したい」が 5 9. 8 %、「ふみ出せそう」を加えると 8 5. 1 %であり、今後の実践につながる集会とすることができた。 ・人権教育啓発指導員を派遣した各団体等が行う人権研修会等のアンケート結果から、人権に対する認識が「深まった」4 6. 2 %、「少し深まった」を加えると 8 7. 0 %であり、人権意識の高揚を図ることができた。 ・人権教育については継続的な取組み、地道な積み重ねが重要であり、多様な学習機会の提供や自主的な人権学習活動への支援を続けることで、市民の人権意識の高揚に貢献した。 【課題】 ・人権に関わる様々な課題が依然として残っており、ヘイトスピーチやインターネットによる人権侵害等新たな人権問題も発生してきている。人権に対する理解を深め、人権尊重意識の高揚を図るためには、人権教育を継続的に推進していく必要がある。 ・学習機会の提供においては、人権に関わる様々な課題についての知識や理解を深める視点とともに、人権尊重という普遍的な視点からのアプローチにも留意し、あらゆる場を通じて今日的課題をテーマにわかりやすい表現で事業実施する必要がある。			
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった		
担当課	社会教育課			

推進施策	(2) 家庭教育への支援	
事業内容 実績 対象者等	① 親のための応援塾への支援 - 子どもたちの生活習慣や学習習慣がしっかり身に付くよう、小学校就学前の子どもを持つ親を対象に「親のための応援塾」を開催し、家庭における教育力の向上を図った。 - 市内全18小学校において、各校PTAと学校との連携により、講演、懇談及び保護者間の交流を行った。 ② 亀岡市PTA連絡協議会との連携と活動支援 - 亀岡市PTA連絡協議会との連携により、家庭、学校、地域との連携を強化するとともに、子どもたちの健全育成と家庭における教育力向上を図った。 - 亀岡市PTA連絡協議会研究大会、小学校部会、母親代表委員会研修会時に講師を紹介、派遣し、家庭教育への支援を行った。 「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーンの周知・啓発を連携して行うとともに、庁舎懸垂幕において定期的に広く周知した。	
成果 課題等	【成果】 - 親のための応援塾では、保護者同士の交流や学び合いにより、子どもの社会的自立と、親が子育てを通じて自らの人生を豊かにしていくことの重要性を発信することができた。また、保護者同士のネットワークが図れ、家庭と学校との連携が深まる機会となった。 - 亀岡市PTA連絡協議会等では、多くの保護者参加のもと、家庭教育を支援する学習機会の提供を充実することができた。 「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーンの周知・啓発を行い、子どもの基本的な生活習慣や生活リズムの向上に努めた。 【課題】 - 親のための応援塾は、平成25年度をもって府補助事業が終了するが、今後の事業手法について、検討が必要である。 - 家庭環境の多様化や地域社会の変化により、家庭教育が困難な社会となっている。地域や子育て広場等、豊かなつながりの中で家庭教育が行えるよう、多様な地域の教育機能を活用した家庭教育への支援を図っていく必要がある。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	社会教育課	

推進施策	(3) 子どもの健全育成の推進	
事業内容 実績 対象者等	① 青少年育成団体との連携による子どもの健全育成の推進 ・各町子ども会役員を対象に子ども会育成者交流会を開催し、レクリエーション指導等を行った。(年3回実施・延べ114人参加) ・市内在住の小学生を対象に地域子ども活性化事業を実施し、野外活動や宿泊研修等を行った。(年3回実施・延べ117人参加) ② 子ども「心の教育」推進事業の推進 ・市内全域23地区において、子どもたちの心が豊かに育まれるよう世代を越えた交流の場が持たれた。(延べ5,253人参加) ③ 亀岡市成人式の充実 ・新成人790人(出席率72.2%)が参加した。 ・市内8中学校から選出された16人の実行委員が、合計20回にわたり会議を重ね、成人式の企画・運営を行った。 ④ 放課後児童会事業の充実 (放課後児童会：市内18小学校 25クラブ開設 1～3年生対象) ・放課後児童会の環境改善並びに児童の安全性を確保するための取組を進めた。 放課後児童会の規模の適正化 千代川小学校放課後児童会・南つつじヶ丘小学校放課後児童会 学校外分設運営児童会の学校内統合運営 亀岡小学校放課後児童会・安詳小学校放課後児童会	
成果 課題等	【成果】 ・子ども会育成者交流会では役員同士の交流、地域子ども活性化事業では子どもたちが同年齢はもとより異年齢との交流を持つことができた。 ・次代を担う子どもたちに対し、正義感や倫理観、思いやりの心を育み、人が生きていく上での心得を伝えていく活動が実施できた。 ・亀岡市成人式が新成人式研究会主催の審査において成人式大賞を受賞した市のみが該当する「貢献賞」を亀岡市が4年連続受賞した。 ・放課後児童クラブガイドラインに定める1放課後児童会の規模及び施設、設備面で一定の改善を図ることができた。 【課題】 ・亀岡市子ども会育成連絡協議会の役員や所属シニアリーダーの後継者が不足しており、今後の活動において後継者を育成することが必要である。 ・入会児童が増加傾向にある等、一部の放課後児童会については、更に環境改善や規模の適正化を図ることが必要となっているが、現行以上の保育施設を確保することが困難な放課後児童会がある。 ・平成27年度施行の法改正による放課後児童会入会対象年齢の拡大(6年生まで)等に対応する運営体制(施設環境、人員等)及び実施時期について検討のうえ方針決定を行い、その整備を進めるための年次計画を策定する必要がある。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	社会教育課	

推進施策	(4) 市民の学習活動の推進	
事業内容 実績 対象者等	① 高齢者さわやか教室の充実 ・「安全・安心・心豊かな暮らしをめざして」をテーマに、65歳以上の市民を対象に年間7講座を開催し、いろいろな分野からの学習機会を提供した。(延受講者数 2,230人) ② 生涯学習関係機関・団体との連携による学習機会や学習情報の提供 ・社会教育関連事業63件、スポーツ関連事業38件、文化財保護関連事業10件の計118件の事業を後援、支援した。 ③ 中央公民館活動の充実 ・各種市民講座の開催や障害者成人学級を開設した。(年間約70講座) ・市民の様々な学習意欲に応え、文化・芸術・創作活動等のサークルに活動の場を提供した。約50サークル(年間利用1,491件、延べ16,274人) ・中央公民館で活動する文化学習サークルの日頃の成果発表、市民との交流の場として第34回公民館サークルまつりが7月13日、14日に開催され、多くの市民の参加があった。(参加サークル数25、参加者1,490人)	
成果 課題等	【成果】 ・高齢者さわやか教室では、1講座当たり平均受講者数が333人、アンケート結果でも、毎回参加することが楽しみとの声が多くあった。 ・社会教育関連事業等の後援や広報を行い、市民の生涯学習活動を支援し、様々な分野の学習機会を提供することができた。 ・公民館サークルまつりの発表を励みに、日頃から生涯学習に積極的に取り組めた。 ・障害者学級の開催により、障害者が様々な文化体験をするとともに市民との交流が図れた。 【課題】 ・高齢者さわやか教室では全7講座の継続受講を促しているが、関心のある講座のみを選択受講する参加者が増加した。 ・公民館サークル参加者が固定化し、会員も高齢化してきた。 ・多彩な年齢層にも興味関心を持ってもらえる取組の工夫と新規会員や新たなサークルの参加呼びかけが必要である。 ・障害者成人学級の開催にはボランティアが不可欠であり、人員の確保が必要である。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	社会教育課・中央公民館	

推進施策	(5) 読書活動の充実	
事業内容 実績 績 対象者等	① 図書館施設の整備、読書活動の充実 ・中央館の耐震補強・大規模改修工事を実施し、利用しやすさを考慮したレイアウト変更を行った。(4/1～9/30休館) ・2階には授乳室、おはなしコーナー(畳敷き)を、3階には「おはなしのへや」を新設した。 ② 図書館蔵書の充実による市民読書の推進 ・図書購入数 5,496冊(内、児童書 1,691冊) ・視聴覚資料購入数 CD 85点、DVD 77点 ③ 「かめおっこ夢・未来読書プラン」に基づく子ども読書活動の推進 ・ブックスタート事業として、保健センターが実施する11ヶ月健診時に会場で絵本プレゼントと読み聞かせを行った。 絵本配布 673人 ・おはなし会等の開催 実施回数 147回 参加人数 1,483人 ・配本事業の実施 小学校 11校、公私立幼稚園・保育所(園)19施設 ・学校図書指導員による学校図書館の環境整備等を行った。 実施校 18小学校 活動回数 1,214回(24年度 1,267回) ・読書活動推進関係の講座を開催した。 1回 参加人数35人 ④ 読書ボランティアの養成と支援 ・ボランティア養成講座を開催した。 5回連続講座 受講者 20人	
成果 課題等	【成果】 ・中央館の改修工事を実施した結果、来館者の利便性を高めた快適で過ごしやすい、安全・安心な読書環境が整った。 ・中央館休館(4/1～9/30)の影響で、各分館・分室の利用が増えた。 ・幼稚園・保育所(園)配本事業が定着したことにより、ブックスタート事業と併せて親子読書の推進につながっている。 【課題】 ・かめおっこ夢・未来読書プランのさらなる推進が必要である。 ・目標としている市民一人当たりの年間図書貸出冊数は減少傾向にあり、図書館利用の促進が必要である。 ・図書館利用の促進を図るため、多様な利用者の要望に応える蔵書の充実が必要である。 ・学校等関係機関との連携は少しずつ進んでいるが、連携強化を図るための活動や事業の実施、ボランティアの養成や活動支援等市民協働による地域ぐるみの読書活動の充実が必要である。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	図書館	

推進施策	(6) 生涯スポーツの推進	
事業内容 実績 対象者等	① 元旦ロードレースの実施と、より充実に向けたあり方の検討 - 元旦ロードレースが第32回大会で終了し、新たに京都亀岡ハーフマラソンとして平成27年度に開催することが決定した。平成25年度は準備委員会を開催し、開催時期等について検討した。 ② 体育協会や関係機関と連携した生涯スポーツの推進と競技力向上への支援 - 次の事業を開催した。各事業とも参加者が増加傾向にある。 - ふれあいスポーツ・デー（11回）参加延べ人数 1,022人 - 生涯スポーツ・デー（12回）参加延べ人数 752人 - スポーツ体験教室（小学1～6年生対象）参加延べ人員 744人 - ふれあいハイキング 参加人数 33人 - 亀岡市スポーツ賞表彰式を開催し、優秀な成績や功績のあった115人22団体を表彰した。 - 既存の事業に加え、25年度は新たに下記の事業を実施した。 - サッカー振興事業の開催（亀岡サッカーデー、市民観戦事業） - サンガつながり隊 市立小学校8校で開催 参加人員 1,439人 ③ 市民総合体育大会等各種スポーツ大会の充実 - 平成25年度は主として下記大会等を開催した。 - 亀岡市民総合体育大会 5競技 参加人数 1,543人 - 平和祭市民スポーツ大会 20競技 参加人数 3,996人 - 亀岡元旦ロードレース 参加人数1,539人 申込人数1,615人 - 亀岡市民駅伝競走大会 申込106チーム 参加人数551人 - 京都府民総合体育大会 参加人数 2,864人 ④ スポーツ推進委員による市民スポーツの普及振興事業の実施 - 亀岡市スポーツ推進委員（50人）が適切に各種スポーツ事業の指導・協力を行った。 ⑤ スポーツ環境の整備・充実 - 七谷川野外活動センターにテントを新規設置した。各施設ともリピーターが増加傾向にある。 - 亀岡市社会体育施設（月読橋球技場等）利用状況 2,055件 70,795人 - 亀岡市市民プール（東部・川東・犬甘野）利用状況 7,303人 - 亀岡市七谷川野外活動センター利用状況 835件 10,489人	
成果 課題等	【成果】 - 市体育協会と連携を保ち、市民スポーツの推進が図れた。特に子どもから高齢者まで幅広い年齢層からの参加があり、生涯スポーツの推進に効果があった。 - サッカー振興事業により、市民のスポーツに対する気運が向上した。 【課題】 - 市民の健康保持・増進と生きがいづくり、豊かなコミュニティの形成に向け、既存事業の見直しと事業への積極的な参加の呼びかけが必要である。 - 市民観戦事業の募集方法等を検討する必要がある。 - 市内社会体育施設の一部に老朽化等が見られることから、安全・安心な施設環境を保持するために改修等の検討が必要である。	
内部評価	A	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	社会教育課	

重点目標	6 歴史・文化・自然の保存継承と発信
------	--------------------

推進施策	(1) 文化財の保存と活用	
事業内容 実績 対象者等	① 史跡丹波国分寺跡公有化及び整備の推進 ・史跡丹波国分寺跡の保存活用のために公有化を進めると共に、史跡公園整備を行った。 - 公有化 土地 2筆 1,794㎡買上げ (全体面積73,988.98㎡) - 公園整備 修景施設工事・植栽工・学習施設の設置 ② 世代間交流の積極的な展開と後継者の育成支援 ・亀岡祭山鉦行事の保存継承に支援を行った。 - 民俗文化財の保存継承と賑わい創出活動に支援した。 - 文化遺産を活かした地域活性化事業を活用し、実車による巡行を目指し、山鉦の車輪等を改修した。 ・民俗文化財である佐伯灯籠人形浄瑠璃の後継者養成事業の支援を行った。 - 人形浄瑠璃こども教室 7月から10月の間、10回にわたり延べ208名の児童が郷土芸能を体験した。 - 人形遣い・浄瑠璃語り・三味線弾きの後継者育成を通年で実施した。 ③ 歴史的・文化的景観の保存と活用 ・文化的景観保護推進事業の「大堰川流域の文化的景観」について、その歴史や景観の保存活用のため、地元や地域と関わり合いながら事業を推進した。 - 保存調査の実施と周知啓発事業としてまち歩き・地元説明会・フォーラムを開催した。	
成果 課題等	【成果】 ・史跡丹波国分寺跡の保存活用のための公有化を進め、既公有地については歴史体験学習のできる史跡公園整備として遺構表示を順次進め、保存活用を図ることができた。 ・亀岡祭山鉦行事について、民俗文化財の保存継承と賑わい創出が図れ、また山鉦の車輪の改修により台車を外したことによって本来の姿に戻すことができ、山鉦の文化的価値を高めた。佐伯灯籠人形浄瑠璃について、子供や周辺住民を対象とした取組みによる伝承事業の後継者育成及び普及啓発につなげた。 ・文化的景観保護推進事業の推進において、様々な取組みを行う中で、その歴史や景観の保存活用について、地元や地域と関わることで、普及啓発につながり、住民の協力と連携を図ることができた。 【課題】 ・史跡丹波国分寺跡については、進入導線・駐車場及び便益施設整備のために、バッファゾーン(緩衝帯)としている用地の取得経費に係る財源確保の検討が必要である。 ・世代間交流については、後継者の育成が深刻な問題であり、地域と協働した保存継承の検討が必要である。 ・文化的景観保護推進事業について、周辺環境の公共事業との調整及び国の選定に向け地元との合意形成が必要である。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	社会教育課	

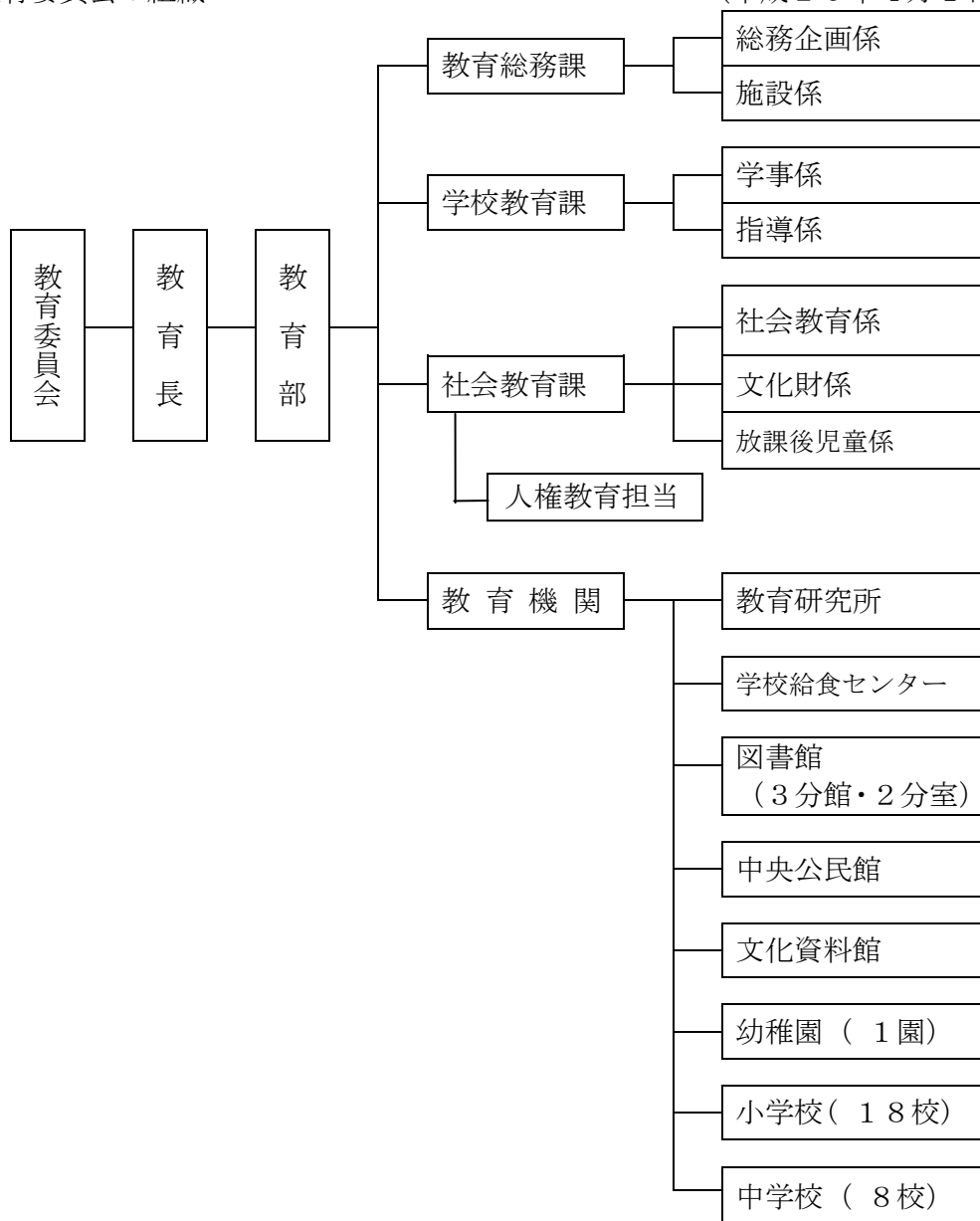
推進施策	(2) 歴史・文化・自然を学ぶ拠点の整備	
事業内容 実績 対象者等	① 新資料館構想策定の検討 - 資料館に必要な要素のひとつとして、子どもたちにも楽しんでもらえる新資料館づくりのために、子どもを対象としたワークショップ「子どもと楽しむ資料館」を連続講座として2回開催した。 ② 文化資料館での特別展・企画展・ロビー展の開催 - 展示事業として、年2回の企画展（「丹波亀岡・風景へのまなざし」、「つちのなかからお宝発見！一かめおかの遺跡を知ろう！学ぼう！一」）と1回の特別展（「これまでの資料館これからの資料館—雑水川、クニッテル通り、技専、文化資料館、そして常設展—」及び8回のロビー展（「サカナの世界」、「明智光秀と亀岡・丹波・山国・近江」、「アユモドキがやってきた」、「戦争平和展」等）を開催した。（25年度来館者総数6,201人／24年度6,212人） ③ 子ども歴史教室の充実 - 昨年に引き続き、「のどかめ親子のアユモドキ見守り隊」として体験講座を中心に年7回開催した。（25年度：20組・56人／24年度：26組・74人） ④ 文化資料館友の会連携事業の充実 - 文化資料館友の会活動の支援を行った。座談会（1回）や講演会（1回）の開催、文化財研修の実施（春秋2回）のほか、市史を読む会（月1回）、古文書勉強会（月1回）、城下町探訪サークル（月2回）、カイコ・綿サークル（月2回）等の諸活動が活発に行われた。（25年度会員数83人／24年度78人） ⑤ 出前講座・授業による学習活動への支援 - 普及活動事業として、小中学校への出前授業（21件）、出張講演・フィールドワーク等（26件）を学校・市民・各種機関の要請に基づき行った。（25年度合計47件／24年度54件）	
成果 課題等	【成果】 - 連続講座という企画の中で、さわる展示体験や子どもたちの資料調査・展示体験等、子どもたちへのアプローチを目的とした体験講座を試みることで、新資料館構想の策定に向けて、大いに参考となった。 - 考古、民俗、歴史、自然の各分野の展示会を通じ、来館見学者が亀岡の貴重な文化財等を知り、関心を高めてもらう契機となった。 - 親子による田植え、ブラックバス駆除、稲刈り等の体験を通じ、アユモドキが生息する自然環境や、希少種魚類の保護活動への理解を深める機会となった。 - 友の会の各種連携事業へ積極的に協力し、ふるさとの歴史・文化・自然を学ぶ生涯学習実践の場として、その充実を図ることができた。 - 小中学校の児童・生徒及び一般市民へ、学芸員が直に語り、説明することで、教育的効果を高め、文化財愛護精神の向上に繋がった。 【課題】 - 現状の資料館活動を基盤に、平成27年度までに市民の参画と協働により新資料館構想を策定する予定であり、その具現化に向けての取組を推進する必要がある。 - 展示普及事業を通じて、更に入館者数の増加に努める。	
内部評価	B	※評価の目安 A…計画どおり又は計画以上の成果を得た B…概ね目標は達成できた C…課題を残し目標も十分達成できなかった
担当課	文化資料館	

資 料

1 教育委員会委員 (平成26年7月1日現在)

職 名	氏 名	教育委員の任期
委 員 長	中桐 安子	平成19年 7月 1日 ～ 平成27年 6月 30日
委員長職務代理者	栗山 正則	平成21年 6月 23日 ～ 平成28年 3月 31日
委 員	井上 昌啓	平成20年 4月 1日 ～ 平成28年 3月 31日
委 員	吉岡眞知子	平成24年12月 25日 ～ 平成27年 3月 31日
委 員	江口 昌道	平成26年 4月 1日 ～ 平成30年 3月 31日
教 育 長	竹岡 敏	平成21年 4月 2日 ～ 平成29年 4月 1日

2 教育委員会の組織 (平成26年4月1日現在)



3 公立学校施設

(1) 小 学 校 平成26年5月1日現在 (単位:人)

学 校 名	開設年月	児童数
亀 岡 小 学 校	明 5. 6	5 6 7
安 詳 小 学 校	明 6. 6	8 0 0
東 別 院 小 学 校	明 6. 11	2 7
西 別 院 小 学 校	明 6. 2	2 6
曾 我 部 小 学 校	明 6. 7	1 8 1
吉 川 小 学 校	明 15. 5	5 3
蔦 田 野 小 学 校	明 6. 1	1 0 0
本 梅 小 学 校	明 5.	7 3
畑 野 小 学 校	明 20. 7	5 9
青 野 小 学 校	明 5. 4	7 0
大 井 小 学 校	明 5. 8	4 7 0
千 代 川 小 学 校	明 6. 5	5 1 4
川 東 小 学 校	昭 37. 4	1 7 4
保 津 小 学 校	明 5. 4	5 1
つつじヶ丘小学校	昭 50. 4	7 4 9
城 西 小 学 校	昭 54. 4	3 6 6
詳 徳 小 学 校	昭 56. 4	2 6 6
南つつじヶ丘小学校	昭 63. 4	4 0 4
計		4, 9 5 0

(2) 中 学 校 平成26年5月1日現在 (単位:人)

学 校 名	開設年月	生徒数
亀 岡 中 学 校	昭 22. 5	5 6 9
別 院 中 学 校	昭 28. 4	4 2
南 桑 中 学 校	昭 22. 5	3 5 6
育 親 中 学 校	昭 22. 5	1 4 4
高 田 中 学 校	昭 22. 5	9 0
東 輝 中 学 校	昭 54. 4	6 9 9
大 成 中 学 校	昭 58. 4	3 7 3
詳 徳 中 学 校	昭 61. 4	3 2 3
計		2, 5 9 6

(3) 幼稚園 平成26年5月1日現在 (単位:人)

幼稚園名	開設年月	園児数
亀岡市立幼稚園	平 26. 4	1 0 7

亀岡市教育委員会事務の点検・評価の実施に関する要綱

平成 21 年 3 月 31 日
亀岡市教育委員会告示第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号。以下「法」という。）第 27 条の規定に基づき、亀岡市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検・評価の対象)

第 2 条 点検・評価の対象は、前年度に実施した教育委員会が定める施策に関する事務、教育行政の推進上重要な課題に係るもの又は点検・評価を行うことが必要と認める事務のうち、教育委員会が選定したものとする。

(協議会)

第 3 条 点検・評価を行うため、教育委員会は、委員協議会（亀岡市教育委員会基本規則（昭和 31 年教育委員会規則第 1 号）第 3 条の 2 に定める委員協議会をいう。（以下「協議会」という。）を開催し、審議する。

2 法第 27 条第 2 項に定める学識経験者の知見を活用するため、当該協議会に外部の学識経験者（以下「外部有識者」という。）の出席を求める。

3 協議会は、教育委員会委員長が招集し、その議長となる。

4 教育委員会委員長が必要と認めるときは、委員及び外部有識者以外の者を協議会に出席させ、意見を聴取し、又は必要な資料等の提出を求めることができる。

(報告書の作成及び公表)

第 4 条 教育委員会は、協議会の検討を踏まえ、点検・評価の結果に関する報告書を作成するものとする。

2 教育委員会は、前項の報告書を亀岡市議会に提出するとともに、公表を行う。

(庶務)

第 5 条 点検・評価の実施に関する庶務は、教育総務課において行う。

(その他)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育長に委任する。

附 則

この要綱は、平成 21 年 4 月 1 日から実施する。

**平成 2 6 年度（平成 2 5 年度対象）
亀岡市教育委員会点検・評価報告書**

発行 平成 2 6 年 9 月
編集 亀岡市教育委員会

〒621-8501

京都府亀岡市安町野々神 8 番地

TEL 0771-25-5052（直通）

FAX 0771-23-3100

URL <http://www.city.kameoka.kyoto.jp>（亀岡市HP）